# 大辞林の凡例

## 略語・記号一覧

### 記号

| | |
|---|---|
| ・ | 語幹と活用語尾の区切り |
| ◦ | 連語や慣用句の見出しなどで活用する部分としない部分の区切り<br>（活用する部分の語幹・語尾の区別ができない場合） |
| ⓪ ① ②… | アクセント　（※詳しくは、後述の「アクセント」参照） |
| 【　】 | 漢字を中心とする表記 |
| 【▼　】 | 常用漢字表にない漢字 |
| 【▽　】 | 常用漢字表にない音訓 |
| 【《　》】 | 常用漢字表「付表」のにある語の表記 |
| 【〈　〉】 | 熟字訓 |
| 【(　)】 | 送り仮名の省略の許容 |
| 【(　)】 | 送り仮名を多く送る許容 |
| 文 | 文語形 |
| 〚　〛 | 外来語の原語，その言語名・国籍 |
| 〔　〕 | 原語のローマ字綴り |
| 〔和製語　〕 | 外国語の擬して作られた片仮名の語の成り立ち |
| ; | 外来語の原語の並記 |
| (　) | 品詞・活用の表示 |
| ◈ | 地名のみだし |
| ◉ | 人名の見出し |
| 〔　〕 | （解説冒頭）語源・語誌、翻訳語の語源、用法、清濁、位相、字音の種類、表記情報<br>（解説末尾）補説 |
| ①② … | 語義・用法を分ける場合 |
| 一二… | 品詞・活用が異なる場合 |
| 一二… | 語義・用法が大きく異なる場合 |
| ❶❷… | ①②…を大きくまとめる場合 |
| ㋐㋑… | ①②…をさらに細かく分ける場合 |
| 〚　〛 | 専門用語 |
| 「　」 | 用例・語例 |
| 季 | 季語 |
| 《　》 | 俳句例 |
| 〔　〕 | 典拠となる古辞書など |
| «　» | 漢字の使い分け |
| 可能 | 可能動詞 |
| 派生 | 派生語 |
| 慣用 | 慣用句 |
| ↔ | 対義語 |
| ▽↔ | 対義語。二つ以上の語義区分に共通する場合 |
| ▶ | 参照項目 |
| ➡ | 解説を他の見出し語で行う場合の参照先 |

| | |
|---|---|
| 図 | 離れた位置に図版あり |
| 表 | 離れた位置に図表あり |
| 表記 | 同訓の漢字の使い分け |

| | |
|---|---|
| 漢 | 漢字項目 |
| 音 | 漢字音 |
| 漢 | 漢音 |
| 呉 | 呉音 |
| 唐 | 唐音 |
| 慣 | 慣用語 |

（以下は解説文中）

| | |
|---|---|
| ・ | 語句の列挙・並列の区切りおよび小数点 |
| - | 外来語の語構成の区切り |
| ＝ | 片仮名で表記される外国人名の姓名の区切り |

| | |
|---|---|
| 類語 | 類語一覧 |
| 親項目 | 親項目 |
| 子項目 | 子項目 |
| 句項目 | 句項目 |

**品詞欄**

| | |
|---|---|
| （名） | 名詞 |
| （代） | 代名詞 |
| （動五） | 動詞五段活用 |
| （動五［四］） | 動詞口語五段活用・文語四段活用 |
| （動四） | 動詞四段活用 |
| （動上一） | 動詞上一段活用 |
| （動上二） | 動詞上二段活用 |
| （動下一） | 動詞下一段活用 |
| （動下二） | 動詞下二段活用 |
| （動カ変） | 動詞カ行変格活用 |
| （動サ変） | 動詞サ行変格活用 |
| （動ナ変） | 動詞ナ行変格活用 |
| （動ラ変） | 動詞ラ行変格活用 |
| （動特活） | 動詞特別活用 |
| （形） | 形容詞 |
| （形ク） | 形容詞ク活用 |
| （形シク） | 形容詞シク活用 |
| （形動） | 形容動詞 |
| （形動ナリ） | 形容動詞ナリ活用 |
| （形動タリ） | 形容動詞タリ活用 |
| （トタル） | 「－と」（副詞）「－たる」（連体詞）の形で用いられるもの |
| （連体） | 連体詞 |
| （副） | 副詞 |
| （接続） | 接続詞 |
| （感） | 感動詞 |
| （助動） | 助動詞 |
| （格助） | 格助詞 |

（接助）　　接続助詞
（副助）　　副助詞
（係助）　　係助詞
（終助）　　終助詞
（間投助）　　間投助詞
（並立助）　　並立助詞
（準体助）　　準体助詞
（接頭）　　接頭語
（接尾）　　接尾語
（連語）　　連語
（枕詞）　　枕詞

**専門用語**

〖哲〗　　哲学
〖論〗　論理学
〖倫〗　倫理学
〖仏〗　仏教
〖言〗　言語学
〖心〗　心理学
〖法〗　法律
〖経〗　経済
〖教〗　教育
〖医〗　医学
〖生〗　生物学
〖数〗　数学
〖物〗　物理学
〖化〗　化学
〖天〗　天文学
〖地〗　地学
〖気〗　気象学
〖電〗　電気工学
〖建〗　建築
〖音〗　西洋音楽
〖美〗　美学・美術
〖文〗　文法

●クラウド辞典版は、書籍版とは字体や約物、書式など一部異なります。
●書籍版にはない挿図や写真、類語情報を収録しています。
●書籍版の付録は収録していません。
●以下のページは、書籍版をそのまま収録しています。

# 【凡例】

## 【編集方針】

一、この辞典は、現代の言語生活に立脚し、現代語を中心に古語や百科語をも含めた総合的な国語辞典として編集したものである。収録した項目は、日常用いる言葉はもとより、万葉集・源氏物語をはじめとするわが国古典にあらわれる語、医学・工学・物理学・法律・経済など各専門分野における用語、および地名・人名、漢字見出し語、アルファベット表記語など、あわせて約二五万一千項目におよぶ。

二、言葉を形・音・義の三面からとらえ、書き表し方、アクセントを示し、丁寧な語釈・用法の記述に力点を置いた。

三、解説にあたっては、多義語は最初に現代語としての一般的な意味・用法を記し、そのあとに順次特殊な意味・用法、古語の意味・用法を記した。語の歴史的変遷にも意を用い、語源・語誌・用法などについても注記した。

四、国語項目については用例を重視し、現代語には作例を、古語には古典からの引用例を掲げることを基本とした。文法については、現在学校教育において最も普通に行われている一般的な考え方によることとした。

五、現代、熟語として一般によく用いられる漢字約三二〇〇を選び、漢字見出し項目として、その漢字音・意味および熟語例を示した。

六、解説の助けとして、約二六〇〇の図版と約一二〇の図表を掲げた。

七、「季語」「敬語」「仮名」「漢字」「辞書」「国語施策」など、文字・語彙・国語などに関する重要項目、および「万葉集」「源氏物語」など古典文学の重要項目については、巻頭に二色刷りの「特別ページ」を設けて詳しく解説した。

八、検索の便を考慮し、人名には◉、地名には◈のしるしを付した。

九、アルファベットや算用数字で表記される語の増える傾向を考慮し、「アルファベット・その他」としてまとめ、五十音の項目に続けて配置した。

十、巻末に、各品詞の活用表・主要助詞一覧、国語施策各文書「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」「ローマ字のつづり方」「外来語の表記」、また、「人名用漢字」、漢字・難読語一覧、和暦・西暦対照表、西暦・和暦対照表を収めた。

## 【見出し】

一、見出しの示し方

(1)見出しは原則として「現代仮名遣い」（昭和六一年七月内閣告示、平成二二年一一月一部改正）の方式によって太字（ゴシック体）の仮名で示した。

(2)和語・漢語は平仮名、外来語は片仮名で示した。（あくまでその語の由来がどこにあるか、という語種の観点に立脚したものであり、慣用的にどう仮名表記されるかを示すことはしなかった。）

**あおい**あふひ⓪【葵】　**あいさい**⓪【愛妻】　**はなぢ**⓪【鼻血】

**みかづき**⓪【三日月】　**とんこう**とんくわう【敦煌】　**カッパ**⓪〔ポルトガルcapa〕

外来語は原則として「外来語の表記」（平成三年六月内閣告示）によって示し、長音を表すには「ー」を用いた。また、「ヴ」は用いず、「バ・ビ・ブ・ベ・ボ」を用いた。

**ハープ**①〔harp〕　**バイオリン**⓪〔violin〕　**ベネチア**〔Venezia〕

**マージャン**⓪①【麻雀】〔中国語〕

(3)子見出しとなる見出しは、親見出しと重なる部分を「―」で省略した。（「見出しの配列」参照）

**がっこう**がくかう⓪【学校】……。**―い**③【学校医】……。**―きゅうしょく**きふ⑤【学校給食】……。**―きょういくほう**けういくはふ【学校教育法】……。

(4)子見出しとなる慣用句・ことわざなどの句項目は、行を改めて漢字仮名交じりの太字で示した。

**あげく**⓪【挙げ句・揚げ句】……。

**挙げ句の果て**

(5)その語に従えられる子見出しも含め、解説の行数の多い見出しは大きめの二行取り見出しとした。

**あいさつ**①【挨拶】……。

……　**―ご**⓪【挨拶語】……。

(6)アルファベットによる略語をはじめ、アルファベットや数字・記号を直接用いて表記されることが多い語は、五十音の項目の後に続けて横組みの「アルファベット・その他」を置き、そこで解説した。

**ATM**〔automated-teller machine〕……。（横組み）

ただし、慣用的なつづり読みの読み方がある場合は、外来語に準じて片仮名で見出しを立て、配置したものもある。

**アスキー**①〔ASCII〕……。　**ラン**〔LAN〕……。

なお、検索の便をはかるため、アルファベットをそのまま読んだ場合の見出しを

示し、適宜解説のある見出しを⇨のあとに[A]を付して示した。

**アーオーセー**⑤〔AOC〕⇨AOC[A]

**アイシーユー**⑤〔ICU〕⇨ICU[A]

二、語構成

(1)見出し語の語構成は、語源をふまえつつ現代の言語意識も考慮し、原則として二つの部分に分け、その間を少しあけて示した。

**あんぜん**⓪【安全】　**うえき**—⓪【植木】　**なべ**①【▾鍋】

(2)人名は姓と名の間で分けた。また、地名は「山」「川」「海」などが接辞的に付くものはその前で分けたが、その他の地名や、年号・作品名などの固有名詞は原則として分けて示さなかった。

(3)区分しがたいものや、区分が活用語の活用する部分の分け目を示す「・」や「。」と重なるものには示さなかった。

三、活用語の見出し

(1)活用する語は原則として終止形を見出しとした。形容動詞は語幹を見出しとした。

(2)口語形と文語形の両形があるものは原則として口語形で見出しを立て、見出しの下に文語形を示した。

おもな文語形は見出しとして立て、口語形が参照できるようにした。ただし、口語形と文語形が配列上並ぶ場合は、文語形見出しを立てなかった。

(3)活用する語には、語幹と語尾の間に「・」を入れて示した。語幹・語尾の区別のできないものには示さなかった。

**あお・ぐ**あふ②【仰ぐ】(動ガ五[四])

**あさ・い**⓪②【浅い】(形)文ク あさ・し

**みる**①【見る】(動マ上一)文マ上一

**あし**②【足・脚】……。

**足を洗・う**

活用する連語および慣用句で、活用する部分が語幹・語尾の区別のできないものは、活用語の上に「。」を入れて示した。

**あまぎらす**。**う**らふ【天。霧らす。う】(連語)

**い**①【意】……。

**意に染まない**

(4)可能動詞形の見出しは、原則として独立の見出しとして立てず、本項目の末尾に可能として、その語形を太字で示した。

**たおす**たふ②【倒す】(動サ五[四])……。可能 **たおせる**

(5)形容詞・形容動詞に接尾語「がる」「げ」「さ」「み」などの付いた派生語形は、原則として独立の見出しとして立てず、本項目の末尾に派生として語幹部分を「—」で省略して示した。

**あつ・い**②【暑い】(形)文ク あっ・し ……。派生 **—がる**(動ラ五[四])　**—げ**(形動)　**—さ**(名)

**しんせつ**【親切・深切】(名・形動)文ナリ ……。派生 **—げ**(形動)　**—さ**(名)　**—み**(名)

## 【歴史的仮名遣い】

(1)歴史的仮名遣いが見出しの仮名遣いと異なるものについては、見出しのすぐ下に二行割りの平仮名で小さく示した。示し方は、見出しの語構成を目安とし、異ならない部分については「—」で示した。

**おうぎ**あふぎ③【扇】　**おうせい**—わう⓪【王政】

(2)子見出しの歴史的仮名遣いは、親見出しと重ならない部分について、見出しに準じて示した。なお、慣用句・ことわざなどの句項目には、歴史的仮名遣いを示さなかった。

**ぎかい**—わい①【議会】……。　**—せいじ**—ぢ④【議会政治】

(3)漢字表記が二種以上あって歴史的仮名遣いが異なる場合は次のように示した。

**いちおう**⓪—わう【一往】・—お【一応】

## 【表記欄】

一、見出し語に当てられる漢字を中心とする書き表し方を【　】の中に示した。その際、国語審議会報告「同音の漢字による書きかえ」を参考にした。二つ以上の表記法がある場合、より一般的と思われる順に「・」で区切り、併記した。

(1)「常用漢字表」(昭和五六年三月内閣告示、平成二二年一一月一部改正)および「人名用漢字別表」の漢字は、それぞれの漢字表で示される字体を用いた。「常用漢字表」ではいわゆる康熙字典体(旧字体)が(　)内に示され、「人名用漢字別表」の漢字も一部それを含むが、その字体は用いなかった。

**とうだい**⓪【灯台】　**りゅうこ**①【竜虎】　**みぞう**⓪②【末曽有】

(2)常用漢字とその音訓を表示した。

【　】の中の漢字が「常用漢字表」にないものには「▾」、その漢字が「常用漢字表」にはあるが見出しに相当する音訓が示されていないものには「▿」を漢字の右肩に付した。また、「常用漢字表」の「付表」の語は《　》で囲んで示した。

**うごう**—ふが⓪【▾鳥合】　**おたけび**—を②⓪【雄▿叫び】　**かわせ**—かはせ⓪【《為替》】

**さなえ**—なへ⓪【《早苗》】

ただし、地名・人名・作品名などのいわゆる固有名詞には「▾」「▿」を付さなかった。

**あまのうずめ の みこと**【天鈿女命・天宇受売命】◉
**さらしなにっき**【更級日記】　**たじま**【但馬】◈

(3)送り仮名は「送り仮名の付け方」（昭和四八年六月内閣告示、平成二二年一一月一部改正）の通則に基づいて示した。

(ア)「常用漢字表」の音訓によるものは、省略の許容についてはその仮名を（）で囲んで示し、多く送る許容については全体を（ ）で囲んで示した。

**きこ・える**⓪【聞(こ)える】(動ァ下一)〔文ヤ下二 きこ・ゆ〕
**くもり**③【曇り】
**あらわ・す**③【著す(著わす)】(動サ五[四])
**おこな・う**⓪【行う(行なう)】(動ワ五[ハ四])

(イ)「常用漢字表」にない漢字および音訓によるものには原則として許容を示さなかった。

**かきなら・す**⓪④【▾掻き鳴らす】(動サ五[四])
**みいだ・す**③⓪【見▽出だす】(動サ五[四])

(ウ)古語は歴史的仮名遣いで示し、送り仮名の許容は示さなかった。

**おもい いず**【思ひ▽出づ】(動ダ下二)
**かいな・ず**【▾掻い▾撫づ】(動ダ下二)

(4)いわゆる熟字訓の類は〈 〉で囲んで示した。

**あお のり**〈青海苔〉②⓪【青(海苔)】　**あじさい**〈紫陽花〉⓪②【(紫陽花)】
**さまよ・う**③【(彷徨)う】(動ワ五[ハ四])

(5)外来語と和語・漢語との複合した見出し語は、原則としてその外来語に相当する部分を「—」で示した。ただし、国名の省略形や学術・専門用語などで一文字のものは省略しなかった。また、必要に応じてその複合語に相当する原語のローマ字綴りを示した。

**エーゲかい**【—海】◈〔Aegean Sea〕
ローマ字・数字などで慣用として書かれるものは、それを示した。
**エーごはん**⓪【A5判】

(6)近代中国語などで、一般に漢字を用いるものについては【 】の中に示した。この場合「▾」「▽」は付さなかった。

**ギョーザ**⓪【餃子】〔中国語〕
**マーボーどうふ**⑤【麻婆豆腐】〔マーボーは中国語〕

二、外来語については、『 』の中に、日本に直接伝来したと考えられる原語を掲げ、その言語名・国籍を注記した。ギリシャ語・ペルシャ語・ロシア語などは適宜ローマ字綴りに直して掲げた。また、原則として英語は国籍の注記を省略した。ただし、複数の国籍を注記するような場合は、他の国籍注記と区別するために、「英」と記すことも適宜行なった。

**ガーゼ**①〔ドイ Gaze〕　**カルタ**①〔ポルト carta〕　**カーテン**①〔curtain〕
**グラム**①〔フラ gramme; 英 gram〕

(1)地名・人名などの固有名詞には原則として国籍を示さず、解説文中で理解できるようにした。

(2)原語音からいちじるしく転訛した外来語や、外国語に擬して日本で作られた片仮名の語などは〔 〕の中にその語源などを示した。

**パンク**⓪〔puncture〕　**ナイター**①〔和 night＋er〕

(3)外来語のうち、かつては漢字を当てて書くことが多かったり、現在でも漢字で書く場合がある語には、その旨を〔 〕の中に補説として示した。

**アイルランド**〔Ireland〕……。〔「愛蘭」とも当てた〕
**インチ**〔inch〕……。〔「吋」とも書く〕

## 【品詞・活用】

見出し語の品詞・活用等の表示は、見出しの下に略語をもって（ ）内に示した。（「略語・記号一覧」参照）

(1)名詞には原則として品詞の表示を省略した。ただし、同一項目で、名詞とそれ以外の品詞の用法とがある場合は名詞用法を（名）と示した。

**あじ**⓪【味】Ⅰ(名) ……。Ⅱ(形動)〔文ナリ〕……。
**かちき**③【勝ち気】(名・形動)〔文ナリ〕

(2)動詞には活用の種類、活用の行を示し、文語形容詞・文語形容動詞には活用の種類を示した。

**あきな・う**③【商う】(動ワ五[ハ四])
**あざらけ・し**【鮮らけし】(形ク)
**つきづき・し**【付き付きし】(形シク)
**おだい**【穏ひ】(形動ナリ)
**せいせい**⓪【凄凄】(形動タリ)

(3)活用語で、口語形と文語形のあるものは、口語形の見出しの品詞欄の下に〔文〕として文語形を示した。ただし、口語・文語同形の場合は文語形を省略した。

**あ・ける**⓪【明ける・空ける・開ける】(動カ下一)〔文カ下二 あ・く〕
**あら・い**⓪②【荒い】(形)〔文ク あら・し〕
**いる**①【射る】(動ァ上一)〔文ヤ上一〕
**おだやか**②【穏やか】(形動)〔文ナリ〕

(4)「する」が付いてサ変動詞としても用いられるものは(名)スル、(副)スルなどの形で示した。

**だんてい**⓪【断定】(名)スル

**しっかり**③【▽確り・▼聢り】(副)スル

(5)文語形容動詞タリ活用に相当する口語で、「—と」(副詞)、「—たる」(連体詞)として用いられるものは(タル)の形で示した。

**とうとう**(タウ)⓪【▼滔▼滔】(タル)文 形動タリ

(6)主な助動詞については、語釈の前に活用変化を示した。

(7)連語は、(連語)と示した。連語の子見出しには(連語)表示を省略した。

## 【見出しの配列】

一、配列は五十音順とした。外来語の長音符「ー」は、直前の仮名の母音にあたる仮名と同じ扱いとした。

**コール**①〔call〕(名)スル
**こお・る**(こほ)⓪【凍る・▽氷る】(動ラ五[四])
**ゴール**①〔goal〕(名)スル

**ほう・る**⓪【放る】(動ラ五[四])
**ホール**①〔hole〕
**ほおん**(ほを)⓪【保温】(名)スル

(1)清音・濁音・半濁音の順とした。

**はい**(ひ)⓪【灰】
**ばい**⓪【倍】
**パイ**①〔pi; Π・π〕

(2)促音(そく)・拗音(よう)を先に、直音をあとにした。

**いっか**①【一家】
**いつか**③⓪【五日】

**きゃく**【客】
**きゃく**⓪【規約】

二、見出しの仮名が同じ場合は、順次、次の基準で配列した。

(1)品詞の順。

名詞・代名詞・動詞・形容詞・形容動詞・連体詞・副詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞・接頭語・接尾語・連語・枕詞の順に配列した。

同じ見出し仮名の動詞は次の活用の順に配列した。

五段・四段・上一段・上二段・下一段・下二段・カ変・サ変・ナ変・ラ変・特別活用

(2)和語・漢語・外来語の順。

(3)普通名詞・固有名詞の順。

地名・人名・作品名などの固有名詞は、普通名詞の後方に配列した。同音・同表記の普通名詞がある場合は、見出しを併せず別に見出しを立て、その普通名詞の直後に置いた。

(4)語構成のないものが先で、以下順次一字目のあとにあるもの、二字目のあとにあるものの順とした。

(5)漢字表記のないものが先、漢字表記のあるものがあと。

(6)漢字表記のあるものは、一字目の画数が少ないものが先。同画数の場合は康熙字典の順。一字目が同字ならば二字目の画数の少ない順とした。一部の漢字およびその構成要素の画数の考え方は巻末付録「漢字・難読語一覧」8ページの「3 検索の便をはかるための数え方」に従った。

(7)ローマ字綴りの外来語は、アルファベット順とした。

(8)漢字見出し項目は、同音語の最後の位置に配列した。

三、親見出しと子見出し

複合語は、語構成上の最初の部分が見出しとして掲げられている場合は、それを親見出しとし、複合語を子見出しとして、五十音順に追い込んでまとめた。ただし、(2)以下の例外を一部設けた。

(1)親見出しは原則として見出しの仮名が三字以上(促音・拗音などの小書き仮名も字数に算入)からなる語に限った。

**あぶら**⓪【油・脂・▼膏】……。**—あげ**③【油揚げ】……。**—あし**③【脂足】……。**—あせ**④③【脂汗・▼膏汗】……。

**えど**【江戸】
**えど じょう**(じやう)【江戸城】

(2)見出しの仮名が三字以上でも、以下のものは親見出しとしなかった。①漢字一字の字音語 ②アルファベット一字の見出し語 ③「おもい(思)」「こころ(心)」「こくさい(国際)」「にほん(日本)」「にじゅう(二十)」「さんじゅう(三十)」など、複合語の多いもの。これらの語が上に付く複合語は独立の見出しとした。

**しょう**(しやう)①【商】
**しょうばい**(しやうばい)①【商売】(名)スル
**アール**①〔R・r〕
**アール アンド ディー**⑦〔R&D〕
**おもい**(おも)②【思い】
**おもいあう**(おもひあふ)④⓪【思い合う】(動ワ五[ハ四])

(3)動詞・形容詞は、独立の見出しとした。

**こおり**(こほり)⓪【氷・凍り】……。**—あずき**(あづき)④【氷小豆】……。
**こおりつく**(こほりつく)④【凍り付く】(動カ五[四])

(4)地名・人名・作品名などの固有名詞は、同音・同表記の語があっても、原則として独立の見出しとした。固有名詞を冠した複合語は、(1)に準じてその固有名詞を親見出しとしてまとめた。

**あいづ**(あづ)【会津】◆……。**—ぬり**⓪【会津塗】……。**—ばんだいさん**【会津磐梯山】……。**—やき**⓪【会津焼】……。**—わかまつ**【会津若松】◆……。

(5)日本人名は姓の見出しを立て、姓の見出し仮名が二字以下でも、姓を親見出しとして追い込んだ。ただし、ペンネームなどの架空の姓は、原則として立てなかった。

**もり**【森】姓氏の一。 **—ありのり**【森有礼】……。 **—おうがい**(おうぐわい)【森鷗外】

(6)慣用句・ことわざなどの句項目は、先頭部分の見出しの後ろに、行を改めて五十音順に配列した。

**うま**②【馬】……。
**馬が合・う**
**馬の背を分・ける**
**馬の耳に念仏**

四、アルファベットを用いて書かれる、AOC・ICUなどの略語や「CTスキャナー」「eスポーツ」などのアルファベットからはじまる語は、「アルファベット・その他」に配列をし、解説もそこで行なった。

## 【解説】

一、語義解説

(1)意味の記述順序は次のようにした。

(ア)現代語として用いられている意味・用法を先にし、古語としての意味・用法をあとに記述した。

(イ)現代語は一般的な語義を先にし、特殊な語義や専門的な語義をあとに記述した。

(ウ)古語は、原義を先にし、その転義を順を追って記述した。

(2)語義区分

語義・用法を分ける場合、次の区分記号を用いた。

(ア)一般には①②③…を用いた。

(イ)品詞・活用が異なる場合は**Ⅰ**Ⅱ**Ⅲ**…を用いた。

**いっこく**④⓪【一刻】**Ⅰ**(名) ……。 **Ⅱ**(名・形動)文ナリ ……。
**うら・む**②【恨む・怨む】**Ⅰ**(動マ五[四]) ……。 **Ⅱ**(動マ上二) ……。

(ウ)語義・用法などが大きく異なる場合は[一][二]…を用いた。

**あ・ける**⓪【明ける・空ける・開ける】(動カ下一)文カ下二 あ・く [一](他動詞)……。
[二](自動詞)……。
**ほうりつ**⓪【法律】[一](歴史的仮名遣い「はふりつ」)……。 [二](歴史的仮名遣い「ほふりつ」)……。

(エ)①②…を大きくまとめる場合は❶❷…を用いた。

(オ)①②…をさらに細かく分ける場合は(ア)(イ)(ウ)…を用いた。

(3)解説の冒頭に、必要に応じ、語源・語誌、翻訳語の語源、用法、清濁、位相、字音の種類、表記情報などを〔 〕で囲んで記した。さらに詳述する場合は補説欄として解説末尾に〔 〕で囲んで記した。

(4)専門用語にはその分野を明らかにするため、必要に応じて『 』で囲んで分野名を示した。(「略語・記号一覧」参照)

(5)二つ以上の漢字表記がある語で、語義によって用い方が異なる場合は語義解説のあとに《 》で囲んで示した。

**かく**[1]【書く・描く・画く】(動カ五[四]) ①……。(ア)……。《書》(イ)……。《描・画》②……。《書》

(6)おもな動詞には、同訓の漢字表記の使い分けについて、表記という記号の下に解説した。

(7)二〜三語の同音の語で、その使い分けがむずかしい語には、補説欄で使い分けを解説した。

(8)二〜三語の間で類義関係があり、その使い分けがむずかしい語には、補説欄で使い分けを解説した。

(9)おもな動詞・形容詞には、慣用句として特別の意味で用いられるものを慣用という記号の下に示した。

(10)対義語は↔を用いて示した。対義語が二つ以上の語義区分に共通する場合は▽でまとめて示した。

(11)参照項目は→で示した。

(12)解説をすべて他の見出しで行なった場合は、その見出しを⇩のあとに示した。

(13)別の語形や同義語がある場合は、解説末尾に示した。

(14)季語として用いられるものは季新年のように、季のあとに新年・春・夏・秋・冬を示した。また、句例を《 》の中に示した。

(15)歌枕とされているものは《歌枕》と示した。

(16)人名は、解説の冒頭に生没年を記した。

(17)中国の現代地名・現代人名には、原則として原語の音に近い形を片仮名で解説末尾に示した。

(18)外国の作品名には、その原題を示した。

二、本文の表記

(1)解説の本文は、平易を旨とし、おおむね「常用漢字表」「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」に従って記した。

(2)漢字の字体は、「常用漢字表」ならびに「人名用漢字別表」のいわゆる新字体を用い、他はなるべく一般に通用している字体を用いた。

(3)動植物名・化学物質名などは適宜片仮名を用いた。

## 【用例】

一、見出し語の語義・用法を具体的に示し、また典拠などを示すために、国語項目を中心に、用例を語釈のあとに「　」で囲んで示した。

(1)現代語には作例を掲げた。ただし今日ではやや特殊な語義・用法などについては明治以降の文献からの引用例を適宜掲げた。

(2)古語には古典からの引用例を掲げた。初出例にこだわらず、語釈・用法の理解の助けとなるものを掲げた。

(3)見出し語に相当する部分は「—」で略した。

活用語の場合は語幹部分を「—」で表し「・」を付けて活用語尾を送った。語幹と語尾の区別ができない語は「—」で略さず太字で示した。

**かいちゅう**くわい⓪【懐中】(名)スル　①……。「—をさぐる」「—して来た翻訳物を取出し／浮雲四迷」②……。「人の—を抜くのがスリで／吾輩は猫である漱石」

**かく・す**②【隠す】(動サ五[四])　①……。「雲が日を—・す」「身を—・す」②……。「能ある鷹は爪めつを—・す」「困惑の色を—・さない」

**する**⓪【〽為る】(動サ変)図サ変す　①……。「勉強をする」②……。「昔、高校の教師をしていたとき」③……。

連語・慣用句で、活用する部分が語幹・語尾の区別のできないものは、活用する部分の前までを「—。」で略し、そのあとに活用する部分を送った。

**みみ**②【耳】……。

**耳に。する**……。「変なうわさを—。した」

二、引用例文・出典の示し方

(1)引用文献のうち古典の書名は多く略称を用い、主要な作品には巻名・章段名・部立てなどを小字で付記した。また、近代の書名は原則として全形を示し、作者名を略して小字で付記した。(「出典略称等一覧」参照)

**いぬる**【〽往ぬる・▽去ぬる】(連体)　……。「—十余日のほどより／源若紫」

**おおみかど**おほみ【大〽御門】……。「—はさしつや／枕一七九」

**かんきゃく**⓪【閑却】(名)スル　……。「生と死との最大問題を—する／虞美人草漱石」

(2)古典の用例は歴史的仮名遣いによって示した。読みやすさを考慮し、原典の仮名を漢字に改め、句読点・濁点を補うなどしたため、必ずしも原典のままではない。なお、読み仮名は現代仮名遣いで付した。

近代の用例は原則として原典のままとした。

(3)用例中、語句の一部を省略した場合は「…」で示した。また、必要に応じ、語句の注釈を(　)で囲んで片仮名で示した。

(4)「日葡辞書」「ヘボン」(和英語林集成)などのローマ字書きは片仮名でうつした。

**えつよ**【悦予】……。「—ヲイダク／日葡」

(5)古辞書などに典拠のあるものについては、[　]の中に文献名のみを示した。

**あぎ**【〽顎・▽腭】①うわあご。[和名抄]②魚のえら。[新撰字鏡]

(6)万葉集は「国歌大観番号」(旧)で示した。また、日本書紀・古事記などの訓・訓注の部分はその旨を示した。

**あきつかみ**【〽現つ神】……。「—吾が皇おおきみの天の下／万一〇五〇」

**おご・し**【厳し】(形シク)　……。「三百の—・しき大徳ほうし等／紀持統訓」

## 【漢字見出し項目】

(1)熟語として一般によく用いられる漢字(造語成分としての漢字)を、その漢字の代表字音で配列し、解説した。たとえば、「あ」という代表字音をもつ漢字を、その代表字音「あ」の二行取りのタイトルのもとに示してある。同音の漢字の中の配列は画数順・康熙字典の部首順によった。

あ　漢

【亜(亞)】……。

【〽阿】……。

(2)漢字見出し項目の配列は同音語の最後とし、上部の太い罫線で区別して示した。

(3)常用漢字表に示されているいわゆる康熙字典体は(　)に入れて示し、許容字体は[　]に入れて示した。

【温(溫)】

【餌[餌]】

(4)解説中では、その漢字の一般的な字音をそれぞれ、漢音・呉音・唐音・慣用音の区別をして示すとともに、その意味・熟語例を示した。

【▽蛙】音ア(慣)・ウ(漢)・エ(呉)　カエル。「蛙声・井蛙せい」

【払(拂)】音フツ(漢)・ホツ(呉)(唐)　はらう。はらいのける。「払暁・払拭ふつしょく・払底・払子ほっす」

(5)熟語例は、その漢字が語頭にくるものを先に示し、複数示す場合は、五十音順とした。

## 【その他】

(1)枕詞は見出しの下に(枕詞)として示した。

(2)人名の見出しのうち、日本人名については物故者に限った。

(3)解説文中の年号については西暦紀元を用いた。解説の中で同世紀の四桁の年が二つ以上あらわれる場合は、世紀を示す最初の二桁の数字を省いた。

## 【アクセント】

(1)見出し語のうち、現代語および現代でも使用されることのある語にアクセントを示した。ただし、方言、古語、人名・地名・作品名などのいわゆる固有名詞、仏教その他専門分野の特殊な用語、歴史的用語、個別の法律名および付属語・連語などには原則として示さなかった。また、二語以上の要素から成る語で一語化の度合が薄く、それぞれの構成要素のアクセントから類推できると思われる語にも示さなかったものが多い。

(2)本辞典で示したアクセントは、現在テレビ・ラジオなどで用いられている全国共通語のアクセントである。

(3)アクセントは単語ごとに、高く発音される部分から低く発音される部分へ移る境目の音が何番目の音であるかを①②③…によって示した。低くならない語は⓪とした。動詞・形容詞など活用する語は、見出し語としての終止形のアクセントのみを示した。また「十人十色」（ジューニン・トイロ）（傍線の部分を高く発音する）などのように、一つの見出し語に二つのアクセントの単位を含むものは①-①のように示した。

《日本語のアクセントの型》

日本語のアクセントは、単語を発音するときに、その単語の中の個々の「拍」を高く発音するか低く発音するかによって決まる。「拍」というのは日本語の音の長さの単位で、下図の例でいえば、カタカナが一字で一拍、「シャ・チュ・キョ」などの拗音は二字で一拍である。現在、東京の言葉を基盤として日本全国で共通に使われている「全国共通語」では、アクセントの種類は、語の拍数によって決まっている。

アクセントの種類は大きく「平板式」と「起伏式」とに分けられる。下図で◎を含むものが起伏式、含まないものが平板式である。●と◎がその語に含まれる個々の拍、○はその語に続いて発音される助詞などである。

共通語ではすべての単語において、一拍目と二拍目との間に音の高低の変化がある。

平板式は、二拍目で高くなったあと、高低の変化がなく、アクセントは一種類だけである。起伏式は、◎の直後で音が低くなり、以下に続く部分には音の高低の変化がない。起伏式をさらに細かく分けるときは、①を「頭高型」といい、二拍語の②、三拍語の③など、単語の最後の拍に◎があるものを「尾高型」、その他の起伏式のアクセントを「中高型」という。

動詞・形容詞など「活用のある語」は、活用形によってアクセントが変わる。文節の形や活用形のときのアクセントは、次ページの例を参照されたい。

### 図　日本語のアクセントの型

| | 平板式 | 起伏式 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 頭高型 | 中高型・尾高型（　　） | | | | |
| | ⓪ | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| 一拍語 | ナ<br>名 | キ<br>木 | | | | | |
| 二拍語 | ミズ<br>水 | アキ<br>秋 | ハナ<br>花 | | | | |
| 三拍語 | カイシャ<br>会社 | デンキ<br>電気 | オカシ<br>お菓子 | オトコ<br>男 | | | |
| 四拍語 | ダイガク<br>大学 | ブンガク<br>文学 | ユキグニ<br>雪国 | サイジキ<br>歳時記 | オトオト<br>弟 | | |
| 五拍語 | チュウゴクゴ<br>中国語 | シャアベット<br>シャーベット | フキュウリツ<br>普及率 | ヤマノボリ<br>山登り | コガタバス<br>小型バス | モモノハナ<br>桃の花 | |
| 六拍語 | ケンブツニン<br>見物人 | ケンモホロロ<br>けんもほろろ | オマワリサン<br>お巡りさん | キンコンシキ<br>金婚式 | コクゴジテン<br>国語辞典 | タンサンガス<br>炭酸ガス | ジュウイチガツ<br>十一月 |

⓪ 平板式：二拍目で高くなってから高低の変化がない
① 起伏式・頭高型：一拍目だけ高く、あとは低い
② 起伏式・中高(尾高)型：二拍目だけ高く、あとは低い
③ 起伏式・中高(尾高)型：二〜三拍目が高く、あとは低い
④ 起伏式・中高(尾高)型：二〜四拍目が高く、あとは低い
⑤ 起伏式・中高(尾高)型：二〜五拍目が高く、あとは低い
⑥ 起伏式・中高(尾高)型：二〜六拍目が高く、あとは低い

# 【出典略称等一覧】

## 【近代作品】

・用例中の書名の直後に小書きで示した作者名を五十音順に配し、姓を併せて掲げ、続けて用例に用いた主な作品を掲げた。

愛山（山地愛山）　現代日本教会史論
晶子（与謝野晶子）　一隅より　みだれ髪
曙（木村曙）　婦女の鑑
敦（中島敦）　山月記　弟子　李陵
周（西周）　万国公法　百一新論　百学連環
一葉（樋口一葉）　うもれ木　大つごもり　経つくえ　十三夜　たけくらべ　にごりえ　花ごもり　暗夜　ゆく雲　わかれ道　われから
稲舟（田沢稲舟）　五大堂
岩五郎（松原岩五郎）　最暗黒の東京
卯吉（田口卯吉）　日本開化小史
烏水（小島烏水）　日本北アルプス縦断記
枝盛（植木枝盛）　民権自由論
円朝（三遊亭円朝）　塩原多助一代記　真景累ヶ淵　怪談牡丹灯籠
鷗外（森鷗外）　部一族　伊沢蘭軒
キタ・セクステリス　うたかたの記　大塩平八郎　興津弥五右衛門の遺書　灰燼　霞亭　生涯の末一年　かのやうに　雁　寒山拾得　魚玄機　懇親会　サフラン　寿阿弥の手紙　山椒大夫　渋江抽斎　青年　即興詩人　そめちがへ　高瀬舟　独身　鶏　羽鳥千尋　花子　半日　百物語　文づかひ　冬の王　北条霞亭　舞姫　妄想　安井夫人　桜洲（中井桜洲）　航海新説　漫遊記程　桜痴（福地桜痴）　もしや草紙　乙羽（大橋乙羽）　千山万水　続千山万水　露小袖　お室（嵯峨の屋お室）　姉と弟　薄命のすず子　初恋　薫（小山内薫）　大川端　花袋（田山花袋）　田舎教師　重右衛門の最後　春潮　生　日光山の奥　野の花　描写論　蒲団　かの子（岡本かの子）　河明り　老妓抄　荷風（永井荷風）　麻布襍記　あぢさゐ　あめりか物語　異郷の恋　腕くらべ　江戸芸術論　おかめ笹　踊子　おぼろ夜　書かでもの記　かし間の女　荷風随筆　荷風文藁　欽楽　金阜山人戯文集　葷齋　漫筆　勲章　紅茶の後　西遊日誌抄　地獄の花　下谷叢話　小説作法　新帰朝者日記　新橋夜話　すみだ川　断腸亭雑藁　断腸亭日乗　つゆのあとさき　問はずがたり　夏すがた　ひかげの花　日和下駄　深川の唄　二人妻　浮沈　ふらんす物語　墨東綺譚　毎月見聞録　野心　夢　夢の女　来訪者　冷笑　わくら葉　寛（菊池寛）　恩讐の彼方に　俊寛　忠直卿行状記　勘助（中勘助）　銀の匙　鑑三（内村鑑三）　求安録　基督信徒の慰　堕落の教義　何故に大文学は出ざる乎　非戦論の原理　幾多郎（西田幾多郎）　善の研究　喜美子（小金井喜美子）　浴泉記　泣菫（薄田泣菫）　二十五絃　久弥（深田久弥）　わが愛する山々　鏡花（泉鏡花）　浅茅生　尼女紅　霰ふる　活人形　伊勢之巻　一之巻　色暦　歌行灯　絵日傘　笈摺草紙　鶯花径　印度更紗　鬼の角　女肩衣　女客　婦系図　海屋記　杜若　葛飾砂子　冠弥左衛門　義血侠血　起誓文　錦帯記　銀短冊　金時計　草迷宮　国貞ゑがく　黒猫　黒百合　軍事通信員　外科室　化鳥　玄武朱雀　高野聖　桜心中　さらさら越　参宮日記　山僧　式部小路　春昼　春昼後刻　鐘声夜半録　白鷺　白金之絵図　続紅雪録　続風流線　袖屏風　辰巳巷談　註文帳　爪びき　通夜物語　照葉狂言　なゝもと桜　南地心中　二世の契　日本橋　沼夫人　萩薄内証話　化銀杏　八万六千四百回　秘妾伝　貧民倶楽部　風流線　梟物語　頬白鳥　酸漿　幻の絵馬　蓑谷　無憂樹　夜行巡査　大和心　湯島詣　妖術　妖僧記　瓔珞品　楊柳歌　夜釣　予備兵　乱菊　竜潭譚　霊象　虚子（高浜虚子）　杏の落ちる音　斑鳩物語　大内旅宿　三畳と四畳半　続風流懺法　俳諧師　風流懺法　情海波瀾　欽堂（戸田欽堂）　遠野物語　国男（柳田国男）　米欧回覧実記　邦武（久米邦武）　あくび　悪魔　蘆刈　景一（川井景一）　横浜新誌　桂月（大町桂月）　十和田湖　啓五郎（岡部啓五郎）　開化評林　謙澄（末松謙澄）　谷間の姫百合　浩二（宇野浩二）　蔵の中　子を貸し屋　香水（菊亭香水）　世路日記　篁村（饗庭篁村）　当世商人気質　紅葉（尾崎紅葉）　青葡萄　安知歌貌林　色懺悔　不言不語　浮木丸　巴波川　江戸水　男ごゝろ　おぼろ舟　女の顔　関東五郎　伽羅枕　紅白毒饅頭　恋のぬけがら　恋山賤　心の闇　此ぬし　金色夜叉　三人妻　新色懺悔　末黒の薄　袖時雨　多情多恨　鉄面皮　隣の女　夏痩　二人女房　二人むく助　拈華微笑　風雅娘　風流京人形　文ながし　紅懐紙　裸美人　むき玉子　冷熱　採菊（条野採菊）　近世紀聞（初編）　犀星（室生犀星）　抒情小曲集　小波（巌谷小波）　妹背貝　こがね丸　当世少年気質　左千夫（伊藤左千夫）　野菊之墓　早苗（高田早苗）　春窓綺話　実篤（武者小路実篤）　おめでたき人　三郎（島田三郎）　条約改正論　散士（東海散士）　佳人之奇遇　思案（石橋思案）　乙女心　子規（正岡子規）　仰臥漫録　獺祭書屋俳話　俳人蕪村　病牀苦語　病牀語録　病牀六尺　筆まかせ　重昂（志賀重昂）　日本風景論　思軒（森田思軒）　探偵ユーベル　訪事日録　治助（高須治助）　花心蝶思録　賤子（若松賤子）　小公子　四迷（二葉亭四迷）　あひびき　浮雲　片恋　奇遇　肖像画　其面影　平凡　めぐりあひ　夢かたり　秋江（近松秋江）　青草　疑惑　執着　別れたる妻に送る手紙　秋声（徳田秋声）　あらくれ　新世帯　黴　縮図　爛　純一郎（織田純一郎）　花柳春話　潤一郎（谷崎潤一郎）　あくび　悪魔　蘆刈　羹　小野篁妹に恋する事　親不孝の思ひ出　鍵　きのうけふ　麒麟　玄奘三蔵　細雪　残虐記　刺青　春琴抄　朱雀日記　青春物語　象　疎開日記　蓼喰ふ虫　痴人の愛　東京をおもふ　人魚の嘆き　猫と庄造と二人のをんな　母を恋ふる記　秘密　飈風　瘋癲老人日記　武州公秘話　文章読本　幇間　彷徨　法成寺物語　盲目物語　幼少時代　乱菊物語　春葉（柳川春葉）　錦木　湘煙（中島湘煙）　同胞姉妹に告ぐ　逍遥（坪内逍遥）　慨世士伝　桐一葉　細君　自由太刀余波鋭鋒　春窓綺話　春風情話　小説神髄　当世書生気質　稗史家略伝并に批評　沓手鳥孤城落月　未来の夢　鋤雲（栗本鋤雲）　匏菴遺稿　匏菴十種　如燕（桜川如燕）　百猫伝　紫瀾（坂崎紫瀾）　汗血千里の駒　次郎（阿部次郎）　三太郎の日記　輔清（青木輔清）　万国奇談　青果（真山青果）　家鴨飼　男五人　南小泉村　雪嶺（三宅雪嶺）　偽悪醜日本人　真善美日本人　漱石（夏目漱石）　カーライル博物館　永日小品　思ひ出す事など　硝子戸の中　草枕　薤露行　虞美人草　こころ　琴のそら音　三四郎　自転車日記　趣味の遺伝　小説「エイルキン」の批評　それから　中味と形式　二百十日　野分　彼岸過迄　文学評論　文学論　文芸の哲学的基礎　文鳥　坊っちゃん　幻影の盾　道草　明暗　門　夢十夜　倫敦塔　倫敦消息　吾輩は猫である　草平（森田草平）　煤煙　蘇峰（徳富蘇峰）　インスピレーション　社会に於ける思想の三潮流　天地悠々　天然と同化せよ！　幽寂

節(長塚節ながつかせつ)　土　和蘭ジョゲ美政録
孝平(神田孝平かんだたかひら)　言文一致
高見(物集高見もずめたかみ)　大阪の宿
滝太郎(水上滝太郎みなかみたきたろう)　足跡　一握の砂
啄木(石川啄木いしかわたくぼく)　葬列　或る女　カインの末裔まつえ
雲は天才である
武郎(有島武郎ありしまたけお)
星座
忠温(桜井忠温さくらいただよし)　肉弾
辰猪(馬場辰猪ばばたつい)　天賦人権論
為之(天野為之あまのためゆき)　春窓綺話き
忠之助(川島忠之助かわしまちゅうのすけ)　八十日間世界一周
兆民(中江兆民なかえちょうみん)　三酔人経綸問答さんすいじんけいりんもんどう
樗牛(高山樗牛たかやまちょぎゅう)　滝口入道
勤(井上勤いのうえつとむ)　狐の裁判　月世界旅行
竜勤ジン鬼談
綱(渡辺綱わたなべつな)　明治奇獄掃魔の曙
鉄幹(与謝野鉄幹よさのてっかん)　鉄幹子てっかんし　東西南北
鉄腸(末広鉄腸すえひろてっちょう)　花間鶯かかん　雪中梅せっちゅうばい
哲郎(和辻哲郎わつじてつろう)　風土
天外(小杉天外こすぎてんがい)　初すがた　はやり唄
魔風恋風
天心(岡倉天心おかくらてんしん)　狩野芳崖かのうほうがい
透谷(北村透谷きたむらとうこく)　一夕観　歌念仏を読みて
エマルソン　厭世詩家と女性
各人心宮内の秘宮　心機妙変を論ず
人生に相渉るとは何の謂いぞ　内部生命論
泣かん乎か笑はん乎　熱意　文学史骨
三日幻境
藤村(島崎藤村しまざきとうそん)　嵐　家　破戒　春　夜明け前
落梅集　若菜集
徳(服部徳はっとり)　民約論
徳明(吉岡徳明よしおかとくめい)　開化本論
独歩(国木田独歩くにきだどっぽ)　愛弟通信　悪魔
欺かざるの記　運命論者　画えの悲み
おとづれ　神の子　帰去来　牛肉と馬鈴薯じゃが
源おぢ　小春　死　鹿狩　酒中日記　正直者
女難　空知川の岸辺　第三者　富岡先生
二少女　馬上の友　春の鳥　非凡なる凡人
帽子　無窮　武蔵野　湯ケ原ゆき　わかれ
忘れえぬ人々
弾(里見弾さとみだん)　今年竹　多情仏心
尚江(木下尚江きのしたなおえ)　火の柱　良人りょうにんの自白
直哉(志賀直哉しがなおや)　網走まで　暗夜行路
大津順吉
浪六(村上浪六むらかみなろく)　三日月
南翠(須藤南翠すとうなんすい)　新粧之佳人しんしょうのかじょうにん　緑簧談ろくこうだん
忍月(石橋忍月いしばしにんげつ)　露子姫

信綱(佐佐木信綱ささきのぶつな)　思草おもい　延房(染崎延房そめざきのぶふさ)　近世紀聞(一～一二編)
伯円(松林伯円しょうりんはくえん)　天保六花撰
白秋(北原白秋きたはらはくしゅう)　からたちの花　邪宗門
白鳥(正宗白鳥まさむねしらとり)　寂寞　何処へ　泥人形
微光
春夫(佐藤春夫さとうはるお)　都会の憂鬱ゆうう
晩翠(土井晩翠どいばんすい)　天地有情
彦作(久保田彦作くぼたひこさく)　鳥追阿松海上新話とりおいあまつかしんわ
眉山(川上眉山かわかみびざん)　うらおもて　書記官　宝の山
ふとこころ日記
英子(福田英子ふくでひでこ)　妾わらの半生涯はんせい
美妙(山田美妙やまだびみょう)　嘲戒小説天狗　戸隠山紀行
武蔵野
百三(倉田百三くらたひゃくさん)　愛と認識との出発
広徳(水野広徳みずのひろのり)　此一戦
弘之(加藤弘之かとうひろゆき)　国体新論
敏(上田敏うえだびん)　うづまき　海潮音
希臘ジ思潮を論ず　美術の翫賞がんしょう
風葉(小栗風葉おぐりふうよう)　青春
無松(服部撫松はっとりぶしょう)　東京新繁昌記
文夫(村田文夫むらたふみお)　西洋聞見録
碧梧桐(河東碧梧桐かわひがしへきごとう)　続春夏秋冬
抱月(島村抱月しまむらほうげつ)　近代批評の意義
囚はれたる文芸
泡鳴(岩野泡鳴いわのほうめい)　人形の家　文芸上の自然主義
芸者小竹　神秘的半獣主義
断橋　耽溺たんでき　発展　放浪　ぼんち
牧水(若山牧水わかやまぼくすい)　路上
正直(中村正直なかむらまさなお)　西国立志編　自由之理
正久(植村正久うえむらまさひさ)
自然界の豫言者ウォルズウォルス
トーマス、カアライル　トルストイ伯
日本の基督スキリ教文学
真道(津田真道つだまちみち)　泰西国法論
万太郎(久保田万太郎くぼたまんたろう)　春泥
三重吉(鈴木三重吉すずきみえきち)　桑の実　小鳥の巣
七杉子(七杉子みすぎこ=総生寛ふさひろ)
西洋道中膝栗毛(一～一五編)
夢柳(宮崎夢柳みやざきむりゅう)　鬼啾々しゅうしゅう　自由の凱歌がいか
本太郎(木下本太郎きのしたもたろう)　南蛮寺門前
弥生子(野上弥生子のがみやえこ)　縁えん
祐一(加藤祐一かとうゆういち)　文明開化
有三(山本有三やまもとゆうぞう)　同志の人々　波　路傍の石
諭吉(福沢諭吉ふくざわゆきち)　学問ノススメ　西洋事情
福翁自伝　福翁百余話　福翁百話
文明論之概略
洋次郎(石坂洋次郎いしざかよう)　若い人
芳野(榊原芳野さかきばらよしの)　文芸類纂

善治(巌本善治いわもとよしはる)　小説家の着眼　小説論
男女交際論　文章上の理想
善郎(長与善郎ながよしろう)　竹沢先生と云ふ人
雷鳥(平塚雷鳥ひらつからいちょう)　元始女性は太陽であった
柳桜(春錦亭柳桜しゅんきんていりゅうおう)　仇娘好八丈あだむすめはちじょう
竜渓(矢野竜渓やのりゅうけい)　浮城ふじょう物語　経国美談けいこくびだん
竜之介(芥川竜之介あくたがわりゅうのすけ)　あの頃の自分の事
或阿呆の一生　或旧友へ送る手記
或日の大石内蔵之助　大川の水　お時儀
お律と子等と　開化の殺人　片恋
河童　枯野抄　軽井沢日記　奇怪な再会　疑惑
首が落ちた話　クラリモンド　戯作三昧げさくざんまい
玄鶴山房　黒衣聖母　骨董羹こっとうかん
さまよへる猶太ユダ人　邪宗門　上海游記
秋山図　侏儒じゅの言葉　酒虫　俊寛　蜃気楼
素戔嗚尊すさのおのみこと　大正八年度の文芸界
大導寺信輔の半生　煙草と悪魔　父　偸盗とうとう
澄江とうこう堂雑記　杜子春とししゅん　トロツコ
南京の基督キリスト　パルタザアル　病中雑記
ひよつとこ　文芸的な、余りに文芸的な
奉教人の死　魔術　蜜柑　老年
柳北(成島柳北なるしまりゅうほく)　航西日乗
柳浪(広津柳浪ひろつりゅうろう)　浅瀬の波　今戸心中
黒蜥蜴くろとかげ　蜃中楼しんちゅうろう　変目伝へんめ
良吉(矢田部良吉やたべりょうきち)　新体詩抄
梁川(綱島梁川つなしまりょうせん)　病閒録びょうかんろく
緑雨(斎藤緑雨さいとうりょくう)　油地獄　あま蛙　おぼろ夜
かくれんぼ　門三味線　眼前口頭　売花翁
涙香(黒岩涙香くろいわるいこう)　鉄仮面
麗水(遅塚麗水ちづかれいすい)　不二の高根
魯庵(内田魯庵うちだろあん)　くれの廿八日　社会百面相
罪と罰　復活　文学者となる法　破垣
蘆花(徳富蘆花とくとみろか)　思出の記　黒い眼と茶色の目
黒潮　自然と人生　死の蔭に　順礼紀行
青山白雲　太平洋を中にして　竹崎順子
トルストイ　日本から日本へ　富士
不如帰ほとと　みみずのたはこと　寄生木やどり
露伴(幸田露伴こうだろはん)　あやしやな　いさなとり
一国の首都　一条路　一陣風　井原西鶴
今川義元　運命　易心後語　艶魔伝　快楽論
蒲生氏郷　雁坂越　川舟　観画談　漢書の作者
鼠頭魚すずき釣り　客舎雑筆　伽羅物語　華厳滝
硯海水滸伝　元時代の雑劇　幻談　五重塔
骨董　渋沢栄一伝　修省論　小品十種　新浦島
新羽衣物語　酔興記　酔郷記　昔日の大鳥
天うつう浪　大公望　大珍話　対髑髏　平将門
武田信玄　為朝　付焼刃　露団々
当世外道の面　当世猫與杓子　読史後語

突貫紀行　努力論　二宮尊徳　ひげ男
評釈曠野　評釈猿蓑　評釈炭俵　評釈続猿蓑
評釈春の日　評釈ひさご　評釈冬の日　風流仏
風流微塵蔵　前田利家　日本武尊　雪紛々
頼朝　連環記　椀久物語
魯文(仮名垣魯文かながきろぶん)　安愚楽鍋あぐらなべ
西洋道中膝栗毛(一～一一編)
高橋阿伝夜叉譚たかはしのがたり

## 【古典作品】

・出典名に略称を用いた作品のすべて、および、用例として頻出する作品のうち、主要なものを五十音順に掲げ、上段に略称、下段に書名(本名題なども含む)を示した。ただし、略称を用いていない場合は、そのまま書名を示した。
・各作品の成立した時代を〔　〕内に示した。
・狂言・幸若舞・洒落本・謡曲については、作品名を列挙した。

塵嚢鈔じんのうしょう　(中世)
青簾　(近世)
赤染衛門集あかぞめえもんしゅう　(中古)
秋篠月清集あきしのげっせいしゅう　(中世)
東逍歌あずまあそびのうた　(上代)
東鑑　(中世)
吾妻鏡あがまかがみ　(中世)
天草本伊曽保物語あまくさのがたりいそほものがたり　(中世)
天草本平家物語あまくさのがたりへいけものがたり　(中世)
天草本平家　(近世)
曠野　(中世)
曠野集あらのしゅう　(近世)
伊京集いきょうしゅう　(中世)
十六夜　十六夜日記にっき　(中世)
和泉式部日記いずみしきぶにっき　(中世)
出雲風土記　(上代)
伊勢　出雲国風土記にふどきのくに　(中古)
伊勢物語いせものがたり　(中古)
新撰犬筑波集しんせんけんつくばしゅう　(中世)
今鏡いまかがみ　(中世)
今物語いまものがたり　(中世)
色葉字類抄いろはじるいしょう　(中古)
伊呂波字類抄いろはじるいしょう　(中古)
浮・＝浮世草子ぞうしよ　(中世)
医者気質　(近世)
一代男　好色一代男こうしょくいちだいおとこ　(中世)
一代女　好色一代女こうしょくいちだいおんな　(中世)
色三味線　傾城色三味線けいせいいろさんみせん　(中世)
歌三味線　傾城歌三味線けいせいうたさんみせん　(中世)
栄花一代男　浮世栄花一代男うきよえいがいちだいおとこ　(中世)
永代蔵　日本永代蔵にほんえいたいくら　(中世)
笑談医者気質しょうだんいしゃかたぎ　(近世)
好色一代男こうしょくいちだいおとこ　(中世)
好色一代女こうしょくいちだいおんな　(中世)
傾城色三味線けいせいいろさんみせん　(中世)
傾城歌三味線けいせいうたさんみせん　(中世)
浮世栄花一代男うきよえいがいちだいおとこ　(中世)
日本永代蔵にほんえいたいくら　(中世)

桜陰比事　本朝桜陰比事
置土産　西鶴置土産
親仁形気　浮世親仁形気
織留　西鶴織留
銀持気質　当世銀持気質
近代艶隠者
禁短気　傾城禁短気
好色盛衰記
侍婢気質　世間侍婢気質
御前義経記
五人女　好色五人女
三代男　好色三代男
芝居気質　当世芝居気質
姑気質　世間姑気質
諸艶大鑑
諸国はなし　西鶴諸国はなし
諸道聴耳世間猿
新永代蔵　日本新永代蔵
新可笑記
新色五巻書
俗つれつれ　西鶴俗つれつれ
旦那気質　世間旦那気質
長者容気　世間長者容気
妾形気　世間妾形気
手代気質　世間手代気質
名残の友　西鶴名残の友
名代紙衣　御伽名代紙衣
男色大鑑　男色大鑑
二十不孝　本朝二十不孝
化物気質　世間化物気質
母親容気　世間母親容気
風流曲三味線
武家義理物語
武道桜　傾城武道桜
武道伝来記
懐硯
文反古　万の文反古
三島暦　傾城三島暦
三所世帯　色里三所世帯
子息気質　世間子息気質
娘容気　世間娘容気
胸算用　世間胸算用
椀久一世　椀久一世の物語
椀久二世　椀久二世の物語
右京大夫集　建礼門院右京大夫集　〔中世〕
宇治拾遺　宇治拾遺物語　〔中世〕
鶉衣　〔近世〕
宇津保　宇津保物語　〔中古〕

運歩色葉集　〔中世〕
栄花　栄花物語　〔中古〕
永久百首　〔中古〕
恵慶集　恵慶法師集　〔中古〕
犬子集　〔近世〕
延喜式　〔中古〕
宴曲集　〔中世〕
おあむ物語　〔近世〕
笈の小文　〔近世〕
往生要集　〔中古〕
大堰河行幸和歌序　〔中古〕
大鏡　〔中古〕
大句数　西鶴大句数　〔近世〕
大上臈御名之事　〔中世〕
大矢数　西鶴俳諧大矢数　〔近世〕
奥の細道　〔近世〕
落窪　落窪物語　〔中古〕
御湯殿上　御湯殿上日記　〔中世・近世〕
おらが春　〔近世〕
折たく柴の記　〔近世〕
仮・＝仮名草子　〔近世〕
　伊曽保物語　犬枕　浮世物語
　薄雪物語　恨之介　可笑記
　竹斎　東海道名所記　難波鉦
　仁勢物語　尤之草紙　元の木阿弥
海道記　〔中世〕
懐風藻　〔上代〕
下学集　〔中世〕
花鏡　〔中世〕
神楽歌　〔上代・中古〕
蜻蛉　蜻蛉日記　〔中古〕
鹿島紀行　〔近世〕
賀茂翁集　賀茂翁家集　〔近世〕
加茂女集　加茂保憲女集　〔中古〕
唐物語　〔中古〕
閑吟集　〔中世〕
菅家後集　〔中古〕
菅家文草　〔中古〕
閑田詠草　〔近世〕
寛平后宮歌合　寛平御時后宮歌合　〔中古〕
看聞御記　〔中世〕
伎・＝歌舞伎　〔近世〕
　青砥稿　青砥稿花紅彩画
　浅間嶽　けいせい浅間嶽
　吾嬬鑑　傾情吾嬬鑑
　阿弥陀が池　阿弥陀が池新寺町
　網模様　網模様灯籠菊桐
　阿波の鳴門　けいせい阿波の鳴門
　伊勢音頭　伊勢音頭恋寝刃
　伊勢平氏　伊勢平氏栄花暦
　因幡小僧　因幡小僧雨夜噺
　入間詞　入間詞大名賢儀
　浮世柄　浮世柄比翼稲妻
　宇都谷峠　蔦紅葉宇都谷峠
　阿国御前　阿国御前化粧鏡
　幼稚子敵討
　お染久松色読販
　加賀鳶　盲長屋梅加賀鳶
　籠釣瓶　籠釣瓶花街酔醒
　唐崎八景　唐崎八景屏風
　韓人漢文　韓人漢文手管始
　勧進帳
　吉祥天女　吉祥天女安産玉
　吉備大臣　吉備大臣支那譚
　金竜橋　傾城金竜橋
　天衣紛　天衣紛上野初花
　桑名屋徳蔵　桑名屋徳蔵入船物語
　毛抜
　黄門記　黄門記童幼講釈
　金秤目　傾城金秤目
　小袖曽我　小袖曽我薊色縫
　五大力　五大力恋緘
　三十石　三十石艠始
　三人吉三　三人吉三廓初買
　四千両　四千両小判梅葉
　暫
　島衛　島衛月白波
　児雷也　児雷也豪傑譚話
　新皿屋舗　新皿屋舗月雨暈
　心中鬼門角
　水天宮　水天宮利生深川
　助六　助六所縁江戸桜
　隅田春　隅田春妓女容性
　曽我綉　曽我綉侠御所染
　梅雨小袖　梅雨小袖昔八丈
　天満宮　天満宮菜種御供
　時桔梗　時桔梗出世請状
　魚屋茶碗　三題噺魚屋茶碗
　なぐさみ曽我　大名なぐさみ曽我
　鳴神
　八幡祭　八幡祭小望月賑
　飛馬始　傾城飛馬始
　富士見る里　傾城富士見る里
　仏の原　けいせい仏の原
　仏母摩耶山　仏母摩耶山開帳
　水木辰之助　水木辰之助餞振舞
　壬生大念仏　けいせい壬生大念仏
　名歌徳　名歌徳三舛玉垣
　櫓太鼓　櫓太鼓鳴音吉原
　矢の根
　四谷怪談　東海道四谷怪談
　与話情　与話情浮名横櫛
記　古事記　〔上代〕
紀　日本書紀　〔上代〕
黄・＝黄表紙　〔近世〕
　咬多雁取帳
　艶気樺焼　江戸生艶気樺焼
　栄花夢　金金先生栄花夢
　金生木　莫切自根金生木
　孔子縞于時藍染
　高慢斎行脚日記
　御存商売物
　心学早染草
　造化夢　金金先生造化夢
　馬鹿長命子気物語
　文武二道万石通
　無益委記
紀伊集　祐子内親王家紀伊集　〔中古〕
義経記　〔中世〕
鳩翁道話　〔近世〕
狂・＝狂言　〔中世〕
　大蔵虎明本を中心とし、虎清本・虎寛本、天正狂言本、狂言六義(和泉流)、狂言記なども用いた。
　皹　悪太郎　朝比奈
　麻生　合柿　粟田口
　居杭　石神　犬山伏
　今神明　今参　伊文字
　入間川　牛馬　靭猿
　瓜盗人　夷毘沙門　烏帽子麻生
　岡太夫　右近左近　鬼の継子
　伯母が酒　音曲聟　鏡男
　柿山伏　鹿島参　蚊相撲
　金岡　金津地蔵　蟹山伏
　鐘の音　川上　河原太郎
　雁雁金　雁礫　不聞座頭
　木六駄　禁野　鬮罪人
　口真似　乞聟　柑子
　膏薬煉　腰祈　子盗人
　昆布売　昆布柿　座禅
　察化　薩摩守　猿座頭
　三人片輪　磁石　二千石
　地蔵舞　止動方角　痺

清水　〔中古〕
真奪（しんだつ）　〔中古〕
鱸（すずき）　〔中古〕
空腕（からうで）　〔中古〕
太刀奪（たちうば）　〔中古〕
茶ぐり（ちゃぐり）　〔中古〕
釣狐（つりぎつね）　〔中古〕
丼礑（どぶらい）　〔中古〕
鈍太郎（どんたろう）　〔中古〕
腥物（なまぐさもの）　〔中古〕
鶏聟（にわとこむこ）　〔中古〕
寝音曲（ねおんぎょく）　〔中古〕
花子（はなご）　〔中古〕
張蛸（はりだこ）　〔中古〕
引括（ひきくく）り　〔中古〕
武悪（むあく）　〔中古〕
富士松（ふじまつ）　〔中世〕
布施無経（ふせなしきょう）　〔中世〕
仏師（ぶし）　〔中世〕
文蔵（ぶんぞう）　〔中世〕
法師が母　〔中世〕
骨皮（ほねかわ）　〔中世〕
松楪（まつゆずり）　〔中世〕
胸突（むねつき）　〔中世〕
目近籠骨（めちかこぼね）　〔中世〕
八幡の前（やわたのまえ）　〔中世〕
痩松（やせまつ）　〔中世〕
横座（よこざ）　〔中世〕
連歌十徳（れんがじゅうとく）　〔中世〕
老武者（ろうむしゃ）　〔中世〕
教訓抄（きょうくんしょう）　〔中世〕
尭孝集（ぎょうこうしゅう）　〔中世〕
玉葉（ぎょくよう）　〔中世〕
清元・＝清元節（きよもとぶし）　〔近世〕
十六夜清心（いざよいせいしん）　〔近世〕
舌出し三番叟（しただしさんばそう）　〔近世〕
鳥羽絵（とばえ）　〔近世〕
去来抄（きょらいしょう）　〔近世〕
金槐（きんかい）　〔近世〕
琴歌譜（きんふ）　〔中古〕
金葉（きんよう）　〔中古〕
愚管（ぐかん）　〔中古〕
経国（けいこく）　〔中古〕
毛吹草（けふきぐさ）　〔近世〕
源（げん）　〔中古〕
兼好集（けんこうしゅう）　〔中世〕
幻住庵記（げんじゅうあんき）　〔近世〕
現存六帖（げんぞんろくじょう）　〔中世〕
合・＝合巻（がっかん）　〔近世〕
正本製（しょうほんせい）　〔近世〕
江家次第（ごうけしだい）　〔中古〕
宗論（しゅうろん）　〔近世〕
素襖落（すおうおとし）　〔中世〕
惣八（そうはち）　〔近世〕
乳切木（ちぎりき）　〔中世〕
通円（つうえん）　〔中世〕
唐人相撲（とうじんずもう）　〔中世〕
鈍根草（どんこんそう）　〔中世〕
鍋八撥（なべはち）　〔中世〕
若市（にやいち）　〔中世〕
塗師（ぬし）　〔中世〕
萩大名（はぎだいみょう）　〔中世〕
腹不立（はらたず）　〔中世〕
髭櫓（ひげやぐら）　〔中世〕
人馬（にんば）　〔中世〕
梟（ふくろう）　〔中世〕
文相撲（ぶんしょうずもう）　〔中世〕
二人袴（ふたりばかま）　〔中世〕
文山賊（ぶんざんぞく）　〔中世〕
棒縛（ぼうしばり）　〔中世〕
松脂（まつやに）　〔中世〕
水掛聟（みずかけむこ）　〔中世〕
餅酒（もちざけ）　〔中世〕
祐善（ゆうぜん）　〔中世〕
鎧（よろい）　〔中世〕
米市（よねいち）　〔中世〕
連歌毘沙門（れんがびしゃもん）　〔中世〕
連尺（れんじゃく）　〔中世〕
呂蓮（ろれん）　〔中世〕
尭孝法印集（ぎょうこうほういんしゅう）　〔中世〕
玉葉和歌集（ぎょくようわかしゅう）　〔近世〕
十番切（じゅうばんぎり）　〔中世〕
高館（たかだち）　〔中世〕
夜討曽我（よるうちそが）　〔中世〕
古今和歌集（こきんわかしゅう）　〔中古〕
古今和歌六帖（こきんわかろくじょう）　〔中古〕
古今六帖（こきんろくじょう）　〔中古〕
古今（こきん）　〔中古〕
古語拾遺（こごしゅうい）　〔中古〕
古事談（こじだん）　〔中世〕
古今百馬鹿（ここんひゃくばか）　〔中世〕
七偏人（しちへんじん）　〔中世〕
志道軒伝（しどうけんでん）　〔中世〕
根南志具佐（ねなしぐさ）　〔中世〕
根無草後編（ねなしぐさこうへん）　〔中世〕
八笑人（はっしょうじん）　〔中世〕
膝栗毛（ひざくりげ）　〔中世〕
和合人（わごうじん）　〔中世〕
後鳥羽院御口伝（ごとばいんおんくでん）　〔中世〕
古本説話（こほんせつわ）　〔中古？〕
後葉集（ごようしゅう）　〔中世〕
コリャード懺悔録（コリャードざんげろく）　〔中世〕
金光明最勝王経（こんこうみょうさいしょうおうきょう）　〔中古〕
西大寺本金光明最勝王経（さいだいじほんこんこうみょうさいしょうおうきょう）　〔近世〕
崑山集（こんざんしゅう）　〔中古〕
今昔（こんじゃく）　〔中古〕
こんてむつすむん地（こんてむつすむんじ）　〔中世〕
催馬楽（さいばら）　〔中古〕
狭衣（さごろも）　〔中古〕
ささめごと　〔中世〕
雑俳・　〔近世〕
化粧紙（けしょうがみ）　〔近世〕
末摘花（すえつむはな）　〔中古〕
川柳評万句合（せんりゅうひょうまんくあい）　〔中世〕
玉の光（たまのひかり）　〔中世〕
手引草（てびきぐさ）　〔近世〕
太箸集（ふとばしゅう）　〔近世〕
讃岐典侍日記（さぬきのすけにっき）　〔中古〕
更級（さらしな）　〔中古〕
申楽談儀（さるがくだんぎ）　〔中世〕
猿蓑（さるみの）　〔近世〕
山家（さんか）　〔中古・中世〕
三十二番職人歌合（さんじゅうにばんしょくにんうたあわせ）　〔中世〕
三冊子（さんさつし）　〔近世〕
甲陽軍鑑（こうようぐんかん）　〔近世〕
幸若・＝幸若舞（こうわかまい）　〔中世〕
敦盛（あつもり）　〔中世〕
堀川（ほりかわ）　〔中世〕
和田宴（わだのえん）　〔中世〕
本能寺（ほんのうじ）　〔中世〕
古今和歌集（こきんわかしゅう）　〔中古〕
古今和歌六帖（こきんわかろくじょう）　〔中古〕
古語拾遺（こごしゅうい）　〔中古〕
後拾遺（ごしゅうい）　〔中世〕
後拾遺和歌集（ごしゅういわかしゅう）　〔中世〕
後撰（ごせん）　〔中世〕
後撰和歌集（ごせんわかしゅう）　〔近世〕
滑・＝滑稽本（こっけいぼん）　〔近世〕
浮世床（うきよどこ）　〔近世〕
浮世風呂（うきよぶろ）　〔近世〕
風流志道軒伝（ふうりゅうしどうけんでん）　〔近世〕
根南志具佐（ねなしぐさ）　〔近世〕
根無草後編（ねなしぐさこうへん）　〔近世〕
花暦八笑人（はなごよみはっしょうじん）　〔近世〕
東海道中膝栗毛（とうかいどうちゅうひざくりげ）　〔近世〕
滑稽和合人（こっけいわごうじん）　〔近世〕
（訓点資料）
古本説話集（こほんせつわしゅう）　〔中古？〕
後葉和歌集（ごようわかしゅう）　〔中世〕
後撰和歌集（ごせんわかしゅう）　〔中世〕
三代格（さんだいきゃく）　〔中古〕
三代実録（さんだいじつろく）　〔中古〕
サントスの御作業（サントスのおんさくぎょう）　〔中世〕
サントスの御作業の内抜書（サントスのおんさくぎょうのうちぬきがき）　〔中世〕
三宝絵詞（さんぼうえことば）　〔中古〕
散木奇歌集（さんぼくきかしゅう）　〔中古〕
詞花（しかか）　〔中古〕
至花道（しかどう）　〔中世〕
四河入海（しかがい）　〔中世〕
史記抄（しきしょう）　〔中世〕
地蔵十輪経（じぞうじゅうりんきょう）　〔中古〕
順集（じゅんしゅう）　〔中古〕
七十一番職人歌合（しちじゅういちばんしょくにんうたあわせ）　〔中世〕
十訓（じっくん）　〔中世〕
十訓抄（じっくんしょう）　〔中世〕
洒・＝洒落本（しゃれぼん）　〔近世〕
十界和尚話（じっかいおしょうわ）　〔中世〕
意妓の口（いきのくち）　〔中世〕
田舎談義（いなかだんぎ）　〔中世〕
うかれ草紙（うかれぞうし）　〔中世〕
卯地臭意（うじくさい）　〔中世〕
ゑ世物語（えせものがたり）　〔中世〕
自惚鏡（うぬぼれかがみ）　〔中世〕
煙華漫筆（えんぴつまん）　〔中世〕
廻覧奇談深淵情（かいらんきだんしんえん）　〔中世〕
郭中奇譚（かくちゅうきたん）　〔中世〕
蚊不喰呪唱曽我（かしにくわねばそがのとなえ）　〔中世〕
嘉和美多里（かわびたり）　〔中世〕
客衆一華表（きゃくしゅいっぱひょう）　〔中世〕
玉の帙（きょくのとりい）　〔中世〕
孔雀染勤記（くじゃくそめつとめき）　〔中世〕
廓之桜（くるわのはな）　〔中世〕
契情貫言告鳥（けいせいかんげんこくちょう）　〔中世〕
傾城買四十八手（けいせいかいしはってい）　〔中世〕
傾城買談客物語（けいせいかいだんきゃくものがたり）　〔中世〕
傾城買二筋道（けいせいかいにすじみち）　〔中世〕
月花余情（げっかよじょう）　〔中世〕
甲駅雪折笹（こうえきゆきおれざさ）　〔中世〕
甲駅新話（こうえきしんわ）　〔中世〕
五臓眼（ごぞうがん）　〔中世〕
雑文穿袋（ざつもんせんたい）　〔中世〕
里のをだ巻（さとのおだまき）　〔中世〕
三教色（さんきょうしき）　〔中世〕
三人酩酊（さんにんめいてい）　〔中世〕
仕懸文庫（しかけぶんこ）　〔中世〕
品川楊枝（しながわようじ）　〔中世〕
娼妓絹麗（しょうぎきぬうらら）　〔中世〕
女郎買之糠味噌汁（じょろうかいのぬかみそじる）　〔中世〕
新吾左出放題盲牛（しんごさでほうだいもうぎゅう）　〔中世〕
神代相眄論（じんだいそうめんろん）　〔中世〕
粋（すい）も　粋好伝夢枕（すいこうでんゆめまくら）　〔中世〕
粋町甲閨（すいまちこうけい）　〔中世〕
寸南破良意（すんなはらい）　〔中世〕
青楼五ツ雁金（せいろうごつかりがね）　〔中世〕
青楼昼之世界錦之裏（せいろうのひるのせかいのにしきのうら）　〔中世〕
青楼日記（せいろうにっき）　〔中世〕
世説新語茶会（せせしんごさえ）　〔中世〕
船頭部屋（せんどべや）　〔中世〕
船頭部屋（せんどべや）　〔近世〕
太平楽記文（たいへいらくきぶん）　〔近世〕
類聚三代格（ぐるいじゅさんだいきゃく）　〔中古〕
日本三代実録（にほんさんだいじつろく）　〔中古〕
（訓点資料）
源順集（みなもとのしたがうしゅう）　〔中古〕
源順集（みなもとのしたがうしゅう）　〔中世〕
詞花和歌集（しかかわかしゅう）　〔中世〕
散木奇歌集（さんぼくきかしゅう）　〔中世〕
散木弁歌集（さんぼくべんかしゅう）　〔中世〕
詞花和歌集（しかかわかしゅう）　〔中世〕
中洲雀（なかすずめ）　〔中世〕
南蘭雑話（なんらんざつわ）　〔中世〕
南遊記（なんゆうき）　〔中世〕
蛇蜆青大通（だけしじみあおだいつう）　〔中世〕
猫謝羅子（ねこしゃらこ）　〔中世〕
初葉南志（はつようなしこ）　〔中世〕
秘事真告（ひじまつげ）　〔中世〕
一目土堤（いちめどづつみ）　〔中世〕
風俗通（ふうぞくつう）　〔中世〕
風流裸人形（ふうりゅうはだかにんぎょう）　〔中世〕
深川新話（しんかわばなし）　〔中世〕
深川手習草紙（しんかわてならいぞうし）　〔中世〕
富賀川拝見（とがわはいけん）　〔中世〕
二筋道後篇廓の癖（ふたすじみちこうへんくるわのくせ）　〔中世〕
部屋三味線（へやさみせん）　〔中世〕
間似合早粋（まにあいはやすい）　〔中世〕
美地の蠣殻（びじのかきがら）　〔中世〕
見通三世相（みとおしさんぜそう）　〔中世〕
南門鼠（みなみのねずみ）　〔中世〕
不粋照明房（ぶすいしょうめいぼう）　〔中世〕
令子洞房（れいしどうぼう）　〔中世〕
野良の玉子（やらのたまご）　〔中世〕
山下珍作（やましたちんさく）　〔中世〕
遊郭窟烟之花（ゆうかくくえんのはなつ）　〔中世〕
遊子方言（ゆうしほうげん）　〔中世〕
陽台遺編（ようだいいへん）　〔中世〕
呼子鳥（よびこどり）　〔中世〕
夜鷹行灯（よるたかあんどう）　〔中世〕
釈日本紀（しゃくにほんぎ）　〔中世〕
沙石集（しゃせきしゅう）　〔中世〕
拾遺（しゅうい）　〔中古〕
拾遺愚草（しゅういぐそう）　〔中世〕
拾遺和歌集（しゅういわかしゅう）　〔中世〕
拾玉集（しゅうぎょくしゅう）　〔中世〕
浄・＝浄瑠璃（じょうるり）　〔近世〕
赤染衛門（あかぞめえもん）　〔中世〕
赤染衛門栄花物語（あかぞめえもんえいがものがたり）　〔中世〕
蘆屋道満（あしやどうまん）　〔中世〕
蘆屋道満大内鑑（あしやどうまんおおうちかがみ）　〔中世〕
油地獄（あぶらじごく）　〔中世〕
阿波の鳴門（あわのなると）　〔中世〕
女殺油地獄（おんなごろしあぶらじごく）　〔中世〕
傾城阿波の鳴門（けいせいあわのなると）　〔中世〕
一谷嫩軍記（いちのたにふたばぐんき）　〔中世〕
伊豆院宣（いずのいんせん）　〔中世〕
伊豆院宣源氏鑑（いずのいんせんげんじかがみ）　〔中世〕
井筒業平（いづつなりひら）　〔中世〕
井筒業平河内通（いづつなりひらかわちつう）　〔中世〕
今宮心中（いまみやしんじゅう）　〔中世〕
今宮の心中（いまみやのしんじゅう）　〔中世〕
妹背山（いもせやま）　〔中世〕
妹背山婦女庭訓（いもせやまおんなていきん）　〔中世〕
卯月の潤色（うづきのうるおい）　〔中世〕
卯月の紅葉（うづきのもみじ）　〔中世〕
ひぢりめん卯月の紅葉（ひぢりめんのもみじ）　〔中世〕
烏帽子折（えぼしおり）　〔中世〕
源氏烏帽子折（げんじえぼしおり）　〔中世〕
扇八景（おうぎはっけい）　〔中世〕
曽我扇八景（そがはっけい）　〔中世〕
奥州安達原（おうしゅうあだちがはら）　〔中世〕
近江源氏（おうみげんじ）　〔中世〕
近江源氏先陣館（おうみげんじせんじんやかた）　〔中世〕
大磯虎（おおいそとら）　〔中世〕
大磯虎稚物語（おおいそとらおさなものがたり）　〔中世〕
辰巳之園（たつみのその）　〔中世〕
辰巳婦言（たつみふげん）　〔中世〕
玉菊灯籠弁（たまきくとうろうべん）　〔中世〕
通気粋語伝（つうきすいごでん）　〔中世〕
通客一盃記言（つうきゃくいっぱいきげん）　〔中世〕
通言総離（つうげんそうばなれ）　〔中世〕
通言の寝言（つうげんのねごと）　〔中世〕
通仁枕言葉（つうじんまくらことば）　〔中世〕
擲銭青楼記（なげぜにせいろうき）　〔中世〕
蕩子筌枉解（とうしせんおうかい）　〔中世〕
当世気とり草（とうせいきどりぐさ）　〔中世〕
当世爰かしこ（とうせいここかしこ）　〔中世〕
道中粋語録（どうちゅうすいごろく）　〔中世〕
登美賀遠佳（とみかおか）　〔中世〕
浪花色八卦（なにわいろはっけ）　〔中世〕
南闌雑話（なんらんざつわ）　〔中世〕
南遊記（なんゆうき）　〔中世〕
蛇蜆青大通（だけしじみあおだいつう）　〔中世〕
根柄異軒之伝（ねがいけいけんのでん）　〔中世〕
猫謝羅子（ねこしゃらこ）　〔中世〕
鼠婦（ねずみ）　〔中世〕
初葉南志（はつようなしこ）　〔中世〕
噺之画有多（はなしのえあるおおし）　〔中世〕
秘事真告（ひじまつげ）　〔中世〕
一目土堤（いちめどづつみ）　〔中世〕
聖遊廓（ひじりのゆうかく）　〔中世〕
風俗通（ふうぞくつう）　〔中世〕
比翼紫（ひよくむらさき）　〔中世〕
風流裸人形（ふうりゅうはだかにんぎょう）　〔中世〕
深川新話（しんかわばなし）　〔中世〕
深川手習草紙（しんかわてならいぞうし）　〔中世〕
富賀川拝見（とがわはいけん）　〔中世〕
二筋道後篇廓の癖（ふたすじみちこうへんくるわのくせ）　〔中世〕
部屋三味線（へやさみせん）　〔中世〕
間似合早粋（まにあいはやすい）　〔中世〕
美地の蠣殻（びじのかきがら）　〔中世〕
見通三世相（みとおしさんぜそう）　〔中世〕
南門鼠（みなみのねずみ）　〔中世〕
不粋照明房（ぶすいしょうめいぼう）　〔中世〕
令子洞房（れいしどうぼう）　〔中世〕
野良の玉子（やらのたまご）　〔中世〕
山下珍作（やましたちんさく）　〔中世〕
遊郭窟烟之花（ゆうかくくえんのはなつ）　〔中世〕
遊子方言（ゆうしほうげん）　〔中世〕
吉原楊枝（よしわらじょうじ）　〔中世〕
陽台遺編（ようだいいへん）　〔中世〕
夜鷹行灯（よるたかあんどう）　〔中世〕
沙石集（しゃせきしゅう）　〔中世〕
拾遺和歌集（しゅういわかしゅう）　〔中世〕
（訓点資料）
源順集（みなもとのしたがうしゅう）　〔中世〕
源順集（みなもとのしたがうしゅう）　〔中世〕
詞花和歌集（しかかわかしゅう）　〔中世〕
散木奇歌集（さんぼくきかしゅう）　〔中世〕
散木弁歌集（さんぼくべんかしゅう）　〔中世〕
詞花和歌集（しかかわかしゅう）　〔中世〕
中洲雀（なかすずめ）　〔中世〕
南闌雑話（なんらんざつわ）　〔中世〕
南遊記（なんゆうき）　〔中世〕
蛇蜆青大通（だけしじみあおだいつう）　〔中世〕
根柄異軒之伝（ねがいけいけんのでん）　〔中世〕
猫謝羅子（ねこしゃらこ）　〔中世〕
鼠婦（ねずみ）　〔中世〕
初葉南志（はつようなしこ）　〔中世〕
噺之画有多（はなしのえあるおおし）　〔中世〕
秘事真告（ひじまつげ）　〔中世〕
一目土堤（いちめどづつみ）　〔中世〕
聖遊廓（ひじりのゆうかく）　〔中世〕
風俗通（ふうぞくつう）　〔中世〕
比翼紫（ひよくむらさき）　〔中世〕
風流裸人形（ふうりゅうはだかにんぎょう）　〔中世〕
深川新話（しんかわばなし）　〔中世〕
深川手習草紙（しんかわてならいぞうし）　〔中世〕
富賀川拝見（とがわはいけん）　〔中世〕
二筋道後篇廓の癖（ふたすじみちこうへんくるわのくせ）　〔中世〕
部屋三味線（へやさみせん）　〔中世〕
間似合早粋（まにあいはやすい）　〔中世〕
美地の蠣殻（びじのかきがら）　〔中世〕
見通三世相（みとおしさんぜそう）　〔中世〕
南門鼠（みなみのねずみ）　〔中世〕
不粋照明房（ぶすいしょうめいぼう）　〔中世〕
令子洞房（れいしどうぼう）　〔中世〕
野良の玉子（やらのたまご）　〔中世〕
山下珍作（やましたちんさく）　〔中世〕
遊郭窟烟之花（ゆうかくくえんのはなつ）　〔中世〕
遊子方言（ゆうしほうげん）　〔中世〕
吉原楊枝（よしわらじょうじ）　〔中世〕
陽台遺編（ようだいいへん）　〔中世〕
夜鷹行灯（よるたかあんどう）　〔中世〕

大塔宮曦鎧（おおとうのみや）　曽我会稽山（そがかけいざん）　（中世）
男作五雁金（おとこさくごがねつ）　けいせい懸物掛（けいせいかけものかけ）　（中世）
会稽山　懸物掛　賀古教信　賀古教信七墓廻（かこのきょうしんなながめぐり）　（中世）
重井筒　心中重井筒（しんじゅうつつ）　（中世）
合邦　桂川（かつらがわ）　（中世）
桂川連理柵（かつらがわれんりのしがらみ）　（中世）
鎌倉三代記（かまくらさんだいき）　摂州合邦辻（せっしゅうがっぱつじ）　（中世）
鎌田兵衛　鎌田兵衛名所盃（かまだひょうえめいしょさかずき）　（中世）
苅萱（かるかや）　苅萱桑門筑紫轢（かるかやのくわもんつくしのいしうと）　（中世）
鬼一法眼　鬼一法眼三略巻（きいちほうげんさんりゃくのまき）　（中世）
祇園女御九重錦（ぎおんにょごのここのえにしき）　兼好法師物見車（けんこうほうしものみぐるま）　（中世）
兼好法師　兼好法師（けんこうほうし）　（中世）
賢女の手習　賢女の手習并新暦（けんじょのてならいあわせてのしんごよみ）　（中世）
恋女房　恋女房染分手綱（こいにょうぼうそめわけたづな）　（中世）
弘徽殿　弘徽殿鵜羽産家（こうきでんうのはのうぶや）　（中世）
氷の朔日　心中刃は氷の朔日（こころのやいばはこおりのついたち）　（中世）
国性爺後日　国性爺合戦（こくせんやかっせん）　（中世）
五十年忌　五十年忌歌念仏（ごじゅうねんきうたねんぶつ）　（中世）
御所桜　御所桜堀川夜討（ごしょざくらほりかわのよるうち）　（中世）
碁太平記　碁太平記白石噺（ごたいへいきしらいしばなし）　（中世）
五人兄弟　曽我五人兄弟（そがごにんきょうだい）　（中世）
碁盤太平記（ごばんたいへいき）　（中世）
嫗山姥（こもちやまんば）　（中世）
最明寺殿　最明寺殿百人上臈（さいみょうじどのひゃくにんじょうろう）　（中世）
嵯峨天皇　嵯峨天皇甘露雨（さがのてんのうかんろのあめ）　（中世）
相模入道　相模入道千疋犬（さがみのにゅうどうせんびきいぬ）　（中世）
薩摩歌（さつまうた）　（中世）
三荘太夫　三荘太夫五人嬢（さんしょうたゆうごにんむすめ）　（中世）
持統天皇　持統天皇歌軍法（じとうてんのうかぐんぽう）　（中世）
島原蛙合戦　傾城島原蛙合戦（けいせいしまばらかわずがっせん）　（中世）
釈迦如来　釈迦如来誕生会（しゃかにょらいたんじょうえ）　（中世）
十二段草子（じゅうにだんそうし）　（中世）
出世景清（しゅつせかげきよ）　（中世）
生写朝顔話（しょうつしあさがおばなし）　（中世）
聖徳太子　聖徳太子絵伝記（しょうとくたいしえでんき）　（中世）
信州川中島　信州川中島合戦（しんしゅうかわなかしまがっせん）　（中世）
神霊矢口渡（しんれいやぐちのわたし）　（中世）
菅原　菅原伝授手習鑑（すがわらでんじゅてならいかがみ）　（中世）
関取千両幟（せきとりせんりょうのぼり）　（中世）
摂州渡辺　摂州渡辺橋供養（せっしゅうわたなべはしくよう）　（中世）
先代萩　伽羅先代萩（めいだいはぎ）　（中世）
千本桜　義経千本桜（よしつねせんぼんざくら）　（中世）
曽根崎心中（そねざきしんじゅう）　（中世）
大経師（だいきょうじ）　大経師昔暦（だいきょうじむかしごよみ）　（近世）
太功記（たいこうき）　絵本太功記（えほんたいこうき）　（近世）
壇浦兜軍記（だんのうらかぶとぐんき）　丹波与作待夜の小室節（たんばよのこむろぶし）　（中世）
丹波与作　丹波与作（たんばよのこむろぶし）　（中世）
近頃河原達引（ちかごろかわらたてひき）　（中世）
忠臣蔵　仮名手本忠臣蔵（かなでほんちゅうしんぐら）　（中世）
津国女夫池　津国女夫池（つくにめおいけ）　（中世）
天の網島　心中天網島（しんじゅうあみじまの）　（中世）
唐船噺　唐船噺今国性爺（とうせんばなしいまこくせんや）　（中世）
虎が磨　曽我虎が磨（そがとらがとぎ）　（中世）
長町女腹切（ながまちおなかぎり）　（中世）
夏祭　夏祭浪花鑑（なつまつりなにわかがみ）　（中世）
難波丸金鶏（なにまるかねのにわとり）　（中世）
廿四孝　本朝廿四孝（ほんちょうにじゅうしこう）　（中世）
二枚絵草紙　心中二枚絵草紙（しんじゅうにまいえぞうし）　（中世）
布引滝　源平布引滝（げんぺいぬのびきのたき）　（中世）
寿の門松　山崎与次兵衛寿の門松（やまざきよじべえことぶきのかどまつ）　（中世）
博多小女郎　博多小女郎波枕（はかたこじょろうなみまくら）　（中世）
艶容女舞衣（えんようおんなまいぎぬ）　花飾三代記（はなかざりさんだいき）　（中世）
花飾　（中世）
孕常盤（はらみときわ）　傾城反魂香（けいせいこんこう）　（中世）
反魂香　東山殿子日遊（ひがしやまどのねのひのあそび）　（中世）
東山殿　彦山権現誓助剣（ひこさんごんげんせいすけのつるぎ）　（中世）
彦山権現　彦山権現誓助剣（ひこさんごんげんせいすけのつるぎ）　（中世）
ひらかな盛衰記（ひらかなせいすいき）　（中世）
富士見西行　軍法富士見西行（ぐんぽうふじみさいぎょう）　（中世）
双生隅田川（ふたごすみだがわ）　（中世）
双蝶蝶　双蝶蝶曲輪日記（ふたつちょうちょうくるわにっき）　（中世）
二つ腹帯　心中二つ腹帯（こころのふたつはらび）　（中世）
平家女護島（へいけにょごのしま）　（中世）
堀川波鼓（ほりかわなみつづみ）　（中世）
松風村雨　松風村雨束帯鑑（まつかぜむらさめそくたいかがみ）　（中世）
万年草　心中万年草（しんじゅうまんねんそう）　（中世）
無間鐘　傾城無間鐘（けいせいむけのかね）　（中世）
冥途の飛脚（めいどのひきゃく）　（中世）
松風村雨束帯鑑（まつかぜむらさめそくたいかがみ）　（中世）
心中万年草（しんじゅうまんねんそう）　（中世）
傾城無間鐘（けいせいむけのかね）　（中世）
心中二つ腹帯（こころのふたつはらび）　（中世）
盛衰記　源平盛衰記（げんぺいせいすいき）　（中世）
正徹物語（しょうてつものがたり）　神皇正統記（じんのうしょうとうき）　（中世）
正統記　正統記（しょうとうき）　（中世）
正法眼蔵（しょうぼうげんぞう）　正法眼蔵随聞記（しょうぼうげんぞうずいもんき）　（中世）
将門記（しょうもんき）　（中世）
性霊集　遍照発揮性霊集（へんじょうはっきしょうりょうしゅう）　（中世）
続日本紀（しょくにほんぎ）　（中世）
続古今和歌集（しょくこきんわかしゅう）　（中世）
続日本後紀（しょくにほんこうき）　（中世）
続古今　続後拾遺和歌集（しょくごしゅういわかしゅう）　（中世）
続後拾遺　続後撰和歌集（しょくごせんわかしゅう）　（中世）
蜀山百首　蜀山人自筆狂歌百首（しょくさんじんじひつきょうかひゃくしゅ）　（近世）
続詞花集　続詞花和歌集（しょくしかかわかしゅう）　（中世）
続拾遺　続拾遺和歌集（しょくしゅういわかしゅう）　（中世）
続千載　続千載和歌集（しょくせんざいわかしゅう）　（中世）
新古今　新古今和歌集（しんこきんわかしゅう）　（中世）
新後拾遺　新後拾遺和歌集（しんごしゅういわかしゅう）　（中世）
新後撰　新後撰和歌集（しんごせんわかしゅう）　（中世）
新拾遺　新拾遺和歌集（しんしゅういわかしゅう）　（中世）
新続古今　新続古今和歌集（しんしょくこきんわかしゅう）　（中世）
新千載　新千載和歌集（しんせんざいわかしゅう）　（中世）
新撰字鏡（しんせんじきょう）　（中世）
新撰菟玖波（しんせんうくば）　新撰菟玖波集（しんせんうくばしゅう）　（中世）
新撰万葉　新撰万葉集（しんせんまんようしゅう）　（中世）
新撰六帖　新撰六帖題和歌（しんせんろくじょうだいわか）　（中世）
新増犬筑波　新増犬筑波集（しんぞういぬつくばしゅう）　（近世）
新勅撰　新勅撰和歌集（しんちょくせんわかしゅう）　（近世）
新内・＝新内節（しんないぶし）　（近世）
明烏　明烏夢泡雪（あけがらすゆめのあわゆき）　（近世）
道中膝栗毛（どうちゅうひざくりげ）　（近世）
蘭蝶（らんちょう）　若木仇名草（わかきのあだなぐさ）　（中世）
新葉　新葉和歌集（しんようわかしゅう）　（近世）
人倫訓蒙図彙（じんりんきもうずい）　（近世）
炭俵（すみだわら）　住吉物語（すみよしものがたり）　（中世）
住吉　（中世・近世）
西宮記（せいきゅうき）　（中世）
節用集（せつようしゅう）　（中世）
千五百番歌合（せんごひゃくばんうたあわせ）　（中世）
千載　千載和歌集（せんざいわかしゅう）　（中世）
撰集抄（せんしゅうしょう）　（中世）
曽我　曽我物語（そがものがたり）　（近世）
蔵玉集　蔵玉和歌集（ぞうぎょくわかしゅう）　（中世）
雑談　雑談集（ぞうだんしゅう）　（中世）
雑兵物語（ぞうひょうものがたり）　（近世）
田植草紙（たうえぞうし）　竹取物語（たけとりものがたり）　（中世）
竹取　玉勝間（たまかつま）　（近世）
たまきはる（たまきはる）　為兼和歌抄（ためかねわかしょう）　（中世）
為兼卿和歌抄（ためかねきょうわかしょう）　（中世）
為尹千首（ためただせんしゅ）　（中世）
歎異抄（たんにしょう）　（中世）
父の終焉日記（ちちのしゅうえんにっき）　（近世）
中華若木詩抄（ちゅうかじゃくしょう）　（中世）
著聞集　月詣和歌集（つきもうでわかしゅう）　（中世）
菟玖波集（つくばしゅう）　（中世）
筑波問答（つくばもんどう）　（中世）
堤中納言　堤中納言物語（つつみちゅうなごんものがたり）　（中世）
唐糸草紙（とうしそうし）　（中世）
徒然　徒然草（つれづれぐさ）　（中世）
庭訓往来（ていきんおうらい）　（中世）
亭子院歌合（ていしいんのうたあわせ）　（中世）
貞丈雑記（ていじょうざっき）　（近世）
天徳四年内裏歌合（てんとくよねんだいりうたあわせ）　（中世）
天徳歌合　天徳歌合（てんとくかがうた）　（中世）
東関紀行（とうかんきこう）　（中世）
多武峰少将物語（とうのみねしょうしょうものがたり）　（中世）
伽・＝御伽草子（おとぎぞうし）　（中世）
秋夜長物語（あきのよながものがたり）　（中世）
秋夜長　秋道　あきみち　（中世）
鴉鷺合戦（からさぎがっせん）　（中世）
唐糸草紙（からいとそうし）　（中世）
熊野　熊野の本地（くまののほんじ）　（中世）
小町　小町草紙（こまちそうし）　（中世）
猿源氏　猿源氏草紙（さるげんじそうし）　（中世）
鶴　鶴の草子（つるのそうし）　（中世）
猫　猫の草紙（ねこのそうし）　（中世）
のせ猿　のせ猿草紙（のせざるのそうし）　（中世）
蛤　蛤の草紙（はまぐりのそうし）　（中世）
福富　福富草紙（ふくとみそうし）　（中世）
文正　文正草紙（ぶんしょうそうし）　（中世）
物臭太郎　物くさ太郎（ものくさたろう）　（中世）
横笛　横笛草紙（よこぶえそうし）　（中世）
常磐津・＝常磐津節（ときわづぶし）　（近世）
角兵衛（かくべえ）　后の月酒宴島台（きさいのつきのしまだい）　（近世）
宗清（むねきよ）　恩愛瞳関守（おんあいのせきもり）　（近世）
戻り駕　戻駕色相肩（もどりかいろそのかた）　（近世）
徳和歌後万載集（とくわかごまんさいしゅう）　（近世）
土左　土左日記（とさにっき）　（中世）
どちりなきりしたん　とりかへばや（とりかへばや）　（中世）
とりかへばや物語（とりかへばやものがたり）　（中世）
とはずがたり（とはずがたり）　（中世）
長唄（ながうた）　成尋阿闍梨母集（じょうじんあじゃりのはは）　（中世）
成尋母集　常山紀談（じょうざんきだん）　（近世）
貞永式目（じょうえいしきもく）　御成敗式目（ごせいばいしきもく）　（中世）
太平記（たいへいき）　太閤記（たいこうき）　（近世）

近江のお兼おかねの　閏茲姿八景またにこにはいす　〔近世〕
正札附　正札附根元草摺ねげんくさずりさこ　〔近世〕
助六すけろく　花翫撫色所八景はなのしまよみけい　〔近世〕
供奴ともや　拙筆力七以呂波にじいりがきなは　〔近世〕
遍昭へんじょう　六歌仙容彩ろくかせんのかたどりが　〔近世〕
娘道成寺　京鹿子娘道成寺きょうがのこむすめどうじょうじ　〔近世〕
吉原雀　教草吉原雀おしえぐさよしわらすずめ　〔近世〕
中務内侍日記なかつかさのないにっき　〔中世〕
日葡　日葡辞書じっぽ　〔中世〕
人・＝人情本にんじょうぼん　〔近世〕
梅児誉美　春色梅児誉美うめごよみ
梅美婦禰　春色梅美婦禰うめみふね
英対暖語　春色英対暖語はるいろえんだんご
恩愛二葉草　恩愛二葉艸おんあいふたばぐさ
恋の染分解　春色恋酒染分解はるのいろこいのそめわけ
辰巳園　春色辰巳園たつみのそのよ
玉襷　春色玉襷はるのいろたまだすき
当世虎之巻後編とうせいとらのまきこうへん　〔中世〕
籬の梅　春色籬之梅はるのいろまがきのうめ
松の調　清談松の調せいだんまつのしらべ
娘節用　仮名文章娘節用かなぶんしょうむすめぶしよう
恵の花　春色恵の花はるのいろめぐみのはな
雪の梅　春色雪の梅はるのいろゆきのうめ
寝覚　夜の寝覚よるのねざめ　〔中世〕
能作書のうさくしょ　〔中世〕
野ざらし紀行のざらしきこう　〔近世〕
祝詞　延喜式祝詞えんぎしきのりと　〔上代〕
梅松論ばいしょうろん　〔中世〕
咄・＝咄本はなしぼん　〔近世〕
あられ酒　軽口あられ酒かるくちざけ
居合刀　軽口居合刀かるくちあいがたなし
機嫌袋　軽口機嫌袋かるくちきげんぶくろ
昨日は今日　きのふはけふの物語きのうはきょうのものがたり
五色紙　軽口五色紙かるくちごしきがみ
御前男　軽口御前男かるくちごぜんとこ
醒睡笑せいすいしょう　軽口大黒かるくちだいこくばなし
大黒柱
鯛の味噌津たいのみそず　軽口露がるくがはなし
露が咄
無事志有意ぶじしゆういし　軽口都男かるくちみやこ
都男
弥次郎口やじろうぐち　軽口あられ酒かるくちあられざけ
浜松中納言　浜松中納言物語はままちゆうなごんものがたりゆうな　〔中古〕
播磨風土記　播磨国風土記はりまのくにふどきのく　〔上代〕
肥前風土記　肥前国風土記ひぜんのくにふどきのく　〔上代〕
常陸風土記　常陸国風土記ひたちのくにふどきのく　〔上代〕
評判記ひょうばんき・古今役者物語ここんやくしゃものがたり　〔近世〕
色道大鏡しきどうおおかがみ　難波の児は伊勢の白粉なにわのこはいせのおしろい　〔中世〕
難波の顔　野郎やろうにぎりこぶし　〔中世〕
吉原人よしわらびとばね　風雅和歌集ふうがわかしゅう　〔中世〕
風雅　風姿花伝ふうしかでん　〔中世〕
風姿花伝　風葉集　風葉和歌集ふようわかしゅう　〔中世〕
武家名目抄ぶけみょうしょう　〔近世〕
夫木　夫木和歌抄ふぼくわかしょう　〔中世〕
文華秀麗　文華秀麗集ぶんかしゅうれいしゅう　〔中古〕
豊後風土記　豊後国風土記ぶんごのくにふどき　〔上代〕
平家　平家物語ひらかものがたり　〔中世〕
平治　平治物語へいじものがたり　〔中世〕
ヘボン　平中物語ものがたりゆう　〔中古〕
弁内侍日記べんのないにっき　和英語林集成わえいごりんしゅうせい　〔中世〕
保元　保元物語ほうげんものがたり　〔中世〕
方丈記ほうじょうき　宝物集ほうぶつしゅう　〔中古〕
宝物　発心集はっしんしゅう　〔中世〕
発心　待賢門院堀河集たいけんもんいんほりかわしゅう　〔中古〕
堀河集　堀河院百首ほりかわいんのひゃくしゅ　〔中古〕
本草和名ほんぞうわみょう　〔中古〕
本朝文粋ほんちょうもんじゅう　〔中古〕
毎月抄まいげつしょう　〔中世〕
枕　枕草子まくらのそうし　〔中古〕
章段は古典文学大系本（岩波書店刊）によった。
増鏡ますかがみ　〔中世〕
松の葉まつのは　〔近世〕
万　万葉集まんようしゅう　〔上代〕
万代集　万代和歌集よろずだいわかしゅう　〔中世〕
名義抄　類聚名義抄ふるいじゅうみょうぎしょう　〔中古？〕
無名抄むみょうしょう　〔中世〕
無名草子むみょうそうし　〔中世〕
紫式部日記むらさきしきぶにっき　〔中世〕
明月記めいげつき　〔中世〕
明衡往来めいこうおうらい　〔中世〕
蒙求抄もうきゅうしょう　〔中世〕
毛詩抄もうしょう　〔中世〕
文徳実録　日本文徳天皇実録にほんもんとくてんのうじつろく　〔中世〕
八雲御抄やくもみしょう　〔中世〕
柳多留　誹風柳多留はいふうやなぎだる　〔近世〕
夢見草ゆめみぐさ　大和物語やまとものがたり　〔近世〕
大和　大和物語のやまとものがたり　〔中世〕
謡・＝謡曲ようきょく
葵上あおいのうえ　安宅やすかた　安達原あだちがはら

敦盛あつもり　生田敦盛いくたのあつもり　〔中世〕
歌占うたうら　江口えぐち　翁おきな　景清かげきよ　通小町とおしまち　砧きぬた　元服曽我げんぷくそがの小鍛冶こかじ　実盛さねもり　石橋せきょう　関寺小町せきでらこまち　高砂たかさご　檀風だんぷう　土蜘蛛つちぐも　道成寺どうじょうじ　巴ともえ　野宮のみやの　半蔀はしとみ　檜垣ひがき　雲雀山ひばりやま　二人静ふたりしずか　松風まつかぜ　盛久もりひさ　夕顔ゆうがお　楊貴妃ようきひ　熊野ゆや　吉野静よしのしずか　羅生門らしょうもん　稲妻表紙いなづまひょうし　〔近世〕
読・＝読本よみほん
雨月　雨月物語のがたり　〔近世〕
八犬伝　南総里見八犬伝なんそうさとみはっけんでん　〔近世〕
春雨　春雨物語はるさめものがたり　〔近世〕
美少年録　近世説美少年録きんせいせつびしょうねんろく　〔近世〕
本朝酔菩提　本朝酔菩提全伝ほんちょうすいぼだいぜんでん　〔近世〕
夢想兵衛　夢想兵衛胡蝶物語むそうひょうえこちょうものがたり　〔近世〕
弓張月　椿説弓張月ちんせつゆみはりづき　〔近世〕
落葉集らくようしゅう　〔中世〕
蘭学事始らんがくことはじめ　〔近世〕
隆達節　隆達小歌集りゅうたつこうた　〔中世〕
霊異記　日本霊異記にほんりょういき　〔中古〕
梁塵秘抄りょうじんひしょう　〔中古〕
林葉集　林葉和歌集りんようわかしゅう　〔中世〕
六百番歌合ろっぴゃくばんうたあわせ　〔中世〕
ロドリゲス　日本大文典ぶんたいてん　〔中世〕
和漢朗詠　和漢朗詠集わかんろうえいしゅう　〔中世〕
和訓栞わくんのしおり　〔近世〕
和名抄　和名類聚抄わみょうるいじゅうしょう　〔中古〕

# 【俳句】

・本文の季のあとの《》の中に示した俳句の、主な作者を掲げた。

## 近代・現代

青木月斗あおきげっと　飯田蛇笏いいだだこつ　石田波郷せきだはきょう　今井つる女いまいつる　大橋越央子おおはしえおこし　加藤楸邨かとうしゅうそん　川端茅舎かわばたぼうしゃ　河東碧梧桐かわひがしへきごとう　虚子（高浜虚子たかはまきょし）　清原枴童きよはらかいどう　久保田万太郎くぼたまんたろう　後藤夜半ごとうやはん　芝不器男しふきお　杉田久女すぎたひさじょ　鈴鹿野風呂すずかのぶろ　高野素十たかのすじゅう　高浜年尾たかはまとしお　田村木国たむらもくこく　中村草田男なかむらくさたおとこ　中村汀女なかむらていじょ　野村泊月のむらはくげつ　長谷川零余子はせがわれいよし　長谷川素逝はせがわそせい　日野草城ひのそうじょう　前田普羅まえだふらら　松瀬青々まつせいせい　水原秋桜子みずはらしゅうおうし　村上鬼城むらかみきじょう　皆吉爽雨みなよしそうう　森川暁水もりかわぎょうすい　山口誓子やまぐちせいし　山口青邨やまぐちせいそん　吉岡禅寺洞よしおかぜんじどう　渡辺水巴わたなべすいは

## 近世

一茶（小林一茶こばやしいっさ）　鬼貫（上島鬼貫うえしまおにつら）　其角（榎本其角えのもときかく）　暁台（加藤暁台かとうきょうたい）　杉風（杉山杉風さんぷう）　召波（黒柳召波くろやなぎしょうは）　素堂（山口素堂やまぐちそどう）　白雄（加舎白雄かやのしらお）　曽良（河合曽良かわいそら）　千代（加賀千代かがのちよ）　太祇（炭太祇たんたぎ）　芭蕉（松尾芭蕉まつおばしょう）　樗良（三浦樗良みうらちょら）　蕪村（与謝蕪村よさぶそんぶ）　史邦（中村史邦なかむらしほう）　凡兆（野坡（志太野坡しだのばば）　也有（横井也有よこいやゆう）　闌更（高桑闌更たかくわらんこう）　嵐雪（服部嵐雪はっとりらんせつ）　蓼太（大島蓼太おおしまりょうた）